
第10回 日野町議会定例会会議録（第3日）

令和4年12月9日（金曜日）

議事日程

令和4年12月9日 午前10時開議

日程第1 一般質問

通告順番6 1番 中山 法貴 議員
通告順番7 8番 佐々木 求 議員
通告順番8 2番 梅林 敏彦 議員
通告順番9 9番 竹永 明文 議員

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

通告順番6 1番 中山 法貴 議員
通告順番7 8番 佐々木 求 議員
通告順番8 2番 梅林 敏彦 議員
通告順番9 9番 竹永 明文 議員

出席議員（10名）

1番 中山 法貴	2番 梅林 敏彦
3番 金川 守仁	4番 松尾 信孝
5番 中原 信男	6番 松本 利秋
7番 安達 幸博	8番 佐々木 求
9番 竹永 明文	10番 小谷 博徳

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 ————— 飛 田 朋 伸 書記 ————— 小 川 由美子
書記 ————— 入 澤 眞 人

説明のため出席した者の職氏名

町長 ————— 埴 田 淳 一 副町長 ————— 音 田 守
教育長 ————— 生 田 求 総務課長 ————— 景 山 政 之
住民課長兼会計管理者 — 荒 木 憲 男 企画政策課長 ————— 神 崎 猛
健康福祉課長 ————— 住 田 秀 樹 産業振興課長 ————— 五 百 川 和 久
建設水道課長 ————— 音 田 雄 一 郎 教育課長 ————— 遠 藤 律 子
代表監査委員 ————— 長 谷 部 正 人

午前10時00分開議

○議長（小谷 博徳君） おはようございます。

ただいまの出席議員数は10人であり、定足数に達していますので、これより令和4年第10回日野町議会定例会3日目を開会いたします。

本日の定例会は、マスク着用や換気を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じて進めます。

出席議員にはタブレット端末機の使用を例規確認のため許可しておりますので、御了承ください。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしました日程のとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長（小谷 博徳君） 日程第1、一般質問を行います。

昨日に引き続き、4名の議員の一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

1番、中山法貴議員の一般質問を許します。

1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 始めます。まず、米百俵の精神、この言葉、御存じでしょうか。

これはかつて長岡藩の藩士、小林虎三郎が残した言葉です。百俵の米も食べばたちまちなくなりますが、教育に充てれば明日の1万、100万俵となる。明治初期の長岡藩は貧しかったのですが、まちおこしのために貴重な米100俵を全て教育に使いました。そして、長岡藩を立て直し、優秀な人材を多く出しました。まちおこしに最も大事なものは教育だ、人材教育だという話です。ということで、私は今回、教育について、人材育成について質問したいと思います。質問事項は日野高校の存続と人材育成についてです。

町は日野高校の双葉寮へ財政的支援をし、また、日野郡3町で日野高校魅力向上推進協議会を設置し、さらにふるさと教育推進協議会も設置し、日野高校存続のための支援と人材育成のための支援をしています。これらの支援に、令和4年度の予算では3,364万6,000円がつけられています。これ、内訳は、日野高校魅力向上事業に813万2,000円、ふるさと教育推進事業に1,015万円、高校の寮、双葉寮の支援に1,536万4,000円、合計3,364万6,000円が予算としてつけられています。

町が高校魅力向上コーディネーターを設置した平成26年から合計すると、日野高校への支援は1億円を超えています。しかし、日野高校は現在、生徒数の減少により、高校自体が存続の危機です。入学者数が募集定員の2分の1に届かず、鳥取県教育委員会が学校の在り方の検討にも入っている状況です。

そこで、質問1つ目、町は日野高校の支援の目的として、地域の活性化と地域の将来を担う人材の育成を上げていますが、成果と課題を伺います。2つ目、来年度の日野高校の入学者数の目標と目標達成に向けての取組を伺います。3つ目、日野郡3町で設置した日野高校魅力向上推進協議会について、これまでの成果と課題を伺います。4つ目、日野郡3町で設置したふるさと教育推進協議会について、これまでの成果と課題を伺います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 1番、中山議員さんの御質問にお答えいたします。

まず初めに、町は日野高校の支援の目的として地域の活性化と地域を担う人材育成を掲げているが、その成果と課題はとのお尋ねでございます。

日野高校と地域とが連携した活動が活性化され、これまで以上に地域の人材を活用した取組や地域資源、素材を有効に活用した活動が展開されていることが1つの成果でございます。ここ数年、これらの取組によって町内の福祉施設や保育所、役場などに就職し、地元を支える人材として活躍している卒業生も出てきておられます。また、その取組や活動が様々な形でメディア等で情報発信され、日野高校の魅力発信とともに日野町の魅力発信もできており、地域とのつながり

が強くなっております。

課題といたしましては、町内や郡内への就職者数をさらに増やしていくような取組を強化していくこと、また、卒業後も日野町とのつながりを意識して、町に貢献できるような人材を育成し、関係人口の増加につながる取組をさらに進めていく必要があると考えます。

次に、来年度の日野高校の入学者数の目標と、目標達成に向けての取組についてのお尋ねでございます。日野高校の入学者数の目標につきましては、日野高校魅力向上推進協議会の推進計画により、年度ごとに数値目標を設定し、取り組んでいるところでございます。令和4年4月時点における令和5年度の入学者数の目標値は、57名とされているところでございます。この計画の母体である日野高校魅力向上推進協議会は、日野郡3町の行政機関と鳥取県関係者、日野高校校長、地域代表者、PTAなどで組織されており、日野高校魅力向上推進計画を策定し、目標達成のための具体的な事業について検討、協議しておられるところでございます。

目標達成に向けた取組としましては、日野高校の魅力を伝えるため、高校ではオンライン説明会や現地訪問を実施し、またユーチューブなどで情報発信をしておられますし、日野高校魅力向上コーディネーターが高校と地域をつなぐための支援をし、様々な取組や話題づくりによって、メディアなどを通して情報発信しておられます。また、地域みらい留学への参画による県外生確保のためのPR活動などの支援も引き続き行い、あわせて、中学校訪問などによる県内や郡内の生徒、保護者への働きかけを積極的に行います。

次に、日野高校魅力向上推進協議会の成果と課題についてのお尋ねでございます。取組の成果としましては、日野高校の入学者数が募集定員の半数以下が2年続いた後、令和3年度には半数を上回る44名となりました。また、県外からの入学者数は、令和2年度は3名でございましたが、令和3年度は10名、令和4年度は13名と増加しております。課題といたしましては、少子化の影響が懸念される中で、入学者数が大幅に減少しないような取組ができるかどうかということや、日野高校からの情報発信の支援や広報活動を強化していくということでございます。

最後に、ふるさと教育推進協議会の成果と課題についてのお尋ねでございます。地域の担い手となる人材を育成、確保するためには、ふるさと教育によって地元への愛着や定着に対する意識を高めることが必要であることから、高校生の学びの場をつくって、知識や学力の習得とともに地域への理解を深めていく公設塾を設置することを協議会で検討されておりました。その結果、令和2年度には日野町にまなびや縁側が設置され、令和4年度からは日南町、江府町も拠点とした塾が開設されたところでございます。まなびや縁側が設置されて、課題解決型学習を実施し、題材として地域資源を取り入れることで地域を学び、地域と関わる機会をつくることのできたこ

とは大きな成果でございます。課題といたしましては、継続して塾講師の人員確保をすることであり、不在となった場合でも、塾の運営を維持していかなければならないため、日野郡3町の協力体制が必要と考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） それでは、追加の質問をいたします。

まず、地域の将来を担う人材の育成について、日野高校の卒業生が町内、郡内に就職されている方も出てきているということで、これ、大変すばらしい、喜ばしいことです。町としては、ここに就職してほしい、この施設に来てほしいなど、あと、これぐらいもっともっと人数、これぐらい就職してほしいというような目標なものは具体的にありますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 日野高校の卒業生さんの就職っていうんですか、町内への就職をどのぐらい数字で期待してるかっていうような趣旨の御質問だと思います。具体的な数字は持っておりませんが、ぜひ、いろんな職種が日野町内、そして日野郡内にございますので、いろんな職種に幅広く就職していただきたいと思います。ただ、日野郡の3町の町長が集まると、いろんなお話があるんですけど、ぜひ役場を受けていただきたいとか、ぜひ医療関係とか福祉関係にも手を挙げていただきたいなっていう、そういうよもやま話をするのはございますけど、結論的に何人何人という数字は持っておりません。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 具体的な数字はないとのことなんですが、希望、期待ということはあるということで、ぜひそちらに来ていただけるように、こちらもPRしていくことが大事だと思います。

また、町内、郡内の就職者数を増やす取組の強化が課題とのことですが、この課題解決のためにはどのようなことを考えていらっしゃるのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） これも3町長集まったときにもいろいろお話をしますし、私も考えているんですけど、やっぱりどういうんですか、地域にどんな仕事があるのか、どういう職種があるのかっていうのを高校生の方にお伝えするっていうか、見ていただく、そういうようなことが一つの地元への就職の意欲を高めるインセンティブになるんじゃないかなと思ってます。と申しますのは、公務員試験を受けるときに、何であの町を受けておられるんだろうと思うと、その町でOJTというか、どういうんですか、公務員の仕事の勉強、勉強というか、OJT研修をした、

気に入って、その町の役場を受けるって、ああ、へえって思いました。そういうようなこともございますので、まず仕事を知っていただく、そういうようなことを、どういうんですか、機会をつくっていかないといけないなというふうに思っております。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 次に、来年度の日野高校の入学者数の目標についてお伺いします。来年度の入学者数の目標は57名とのことですが、この目標値で大丈夫ですか。というのは、日野高校は令和元年、令和2年度と、2年連続で募集定員の半数を入学者数が割ってしまいました。そのため、鳥取県の教育委員会の学校の在り方を3年程度検討するという条件に当てはまってしまうました。学校の在り方を検討するというのは、これ、廃校も含めて検討することなんですけど、この「3年程度検討する」の2年目が今年です。3年目が来年です。あと1年か2年の間に、県から何かしらのコメントが出ると思います。ここで県教育委員会に廃校にはしないとってもらわないといけないんですが、こうすれば廃校を免れるというようなはっきりとした条件というのは聞いておりますか、それが57名なのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） では、中山議員の御質問にお答えいたします。57名というのは、県の示した協議の対象となる、言ってみれば、統合、廃校の対象となるという数字ではありません。これは、あくまでも協議会のほうで目標とする数字として上げております。なるべくその数字に近くなるように、高校のほうでも、例えば地域みらい留学オンライン、あるいは個別の懇談会であるとか、西部の中学校を回るであるとか、そういう取組をしております。なるべくこの57名という数字に近いように、少なくとも過半数を超えるようにという努力をしているというところでございます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） では、はっきりとした条件は分からない。57名くらいいけば多分、多分、多分大丈夫なんじゃないかなというような予測でやられているということなんですか。それとも、何かはっきりと、これをやれば大丈夫だというものを何か聞いてらっしゃいますか、ないですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さん、この57名の数字についてですけれども、考え方が全く異なっております。57名についてとか、この目標値について、県教育委員会のほうが、こういう数字じゃないといけないんだという話は一個もございません。魅力化推進協議会において、日野高

校の魅力を高めていく、その一つの指標として目指すべきは2クラス、76名でしたっけ、それに到達するのが目標なんです。ただ、この目標を立てたときに、現状ではこのくらいですので、現状からその目標に何年間で到達していくのか、そして、そのの、どういうんですか、カーブを描く、その中間点です。特に、この57名というのは、前年が、30名以下の人数が44名になってしまって、最初に立てた目標を上回ってしまったんで、その44名をまたベースにして、どういうんですか、伸び率を考えて、計画期間内の最終年度に2クラス満員になるように、そういうような目標を持って魅力化に取り組みましょうということで、魅力化推進協議会のほうで策定した数字でございます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） つまり、クリア条件というんですか、そういうのは分からない中で、とにかくやるしかない、増やしていくしかないので頑張ろうというところだと思います。これ、クリア条件分からないですが、もうやるしかないので、頑張っていきましょう。

次に、日野町からこの鳥取県教育委員会に、日野高存続のお願いをしたことがありました。ありましたよね。その後はどうなってますか、県教育委員会との話は、何か進んでいるでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 塚田町長。

○町長（塚田 淳一君） 日野町もっていうか、私の就任前ですけれども、日野郡3町の町長が県教委、さらには知事部局に対して、日野高の存続ってというようなことを強力に申し込ませていただいた。そして、地元でも、どういうんですか、存続のための汗をかくってということで、日野高校の魅力化コーディネーター、そういったものを配置して、地域、そして学校、さらには県一体となって、日野高校の魅力化による、結果は存続なんですけど、そういう方向にかじを切って、今、取組を進めさせていただいてるというふうに御理解いただきたい思いますし、また、これはちょっと言い過ぎかもしれませんが、高校再編とか、そういうような流れが確かにございます。町村会、町としても、中山間地の高校を、普通だと、今までの高校再編ということになると、学級を少なくするというのもございますけれども、勢い郡部の学校をなくして都市部に集中させるってというような傾向が、どうも鳥取県ばかりじゃなくて、いろんな、全国でも多い。いや、そういうようなことではなく、やはり教育環境のよい、自然環境のいい、本当にいろんな条件、条件というか、そういう環境のよいところの学校をまず残さんといけんのじゃないか、そういう目線で、何でもかんでも都市部に集めるというような、そういう単純な考え方でないような姿勢で臨んでいただきたいっていうか、考慮していただきたい、そういうような要望を町村会を通じて、県のほうに出してるところでございます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 質問は、お願いを出した後に何らかの進展はあったか、話はあったかという質問なのですが、どうですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 今、要望してるのは、12月19日に県の町村会が要望します。その前も、昨年も要望しました。検討していくっていうか、考慮していくっていうような、結論的にはっきりそうしますとか、できませんとかいうお話ではなかったんですけど、十分こちらの意を酌んでいただけるような御回答であったというような心象を持っております。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 初めの町長の答弁に、PR活動などの支援を引き続き行い、あわせて、中学校訪問などによる県内、郡内の生徒、保護者へ働きかけを積極的に行いますとおっしゃっていただきました。埴田町長、なかなかこういうこと言わないんですよ。どうですかと聞くと、大抵は検討したい、何々をしてまいりたいと、したいな、何とかしたいなと希望をおっしゃるだけで、行動を宣言することってなかなかないんですが、今回、積極的に行いますと、行動を宣言していただきましたので、これはぜひやっていただきたいと思います。

そのPRなんですけれども、昨年は残念ながら入学者が減ってしまいました。これ、PRも含め、原因をどう考えて、今年度はどのようにPRの方法を打っていくのか、まだ時間、3月までありますが、どういうふうに打っていくか考えておられますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 詳細でございますので、教育委員会のほうから答えさせたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） では、中山議員の御質問にお答えいたします。今年度の取組、そして昨年度、入学者数が減ったということの原因についてであります。昨年度につきましては、一つはPR不足、そして、学校の魅力を十分に知っていただくPRすることが不十分だったというような反省に基づき、今年度も昨年度以上に生徒募集に力を、高校のほうも、それから協議会のほうも力を入れておるところであります。例えば、県内の中学校でありますと、校長による中部地区の中学校訪問のほう年2回ずつ、そのたびに日野高ニュースのほうを配布しておられるということでもあります。それから、校長と魅力向上推進協議会のメンバーによる中学校訪問のほうもされております。また、県内の生徒向けの体験入学でありますとか、生徒向けのオンライン説明会、それから県内の中学校向け日野高校の説明会、見学会等をされております。また、県外の

中学生に対しては、地域みらい留学オンライン合同説明会及び個別説明会というのを年9回されておられます。これは、令和元年度から参加されておられるということでもあります。

それから、広報活動としては、教育活動として随時資料提供をされており、また、マスコミ等への出演、中海テレビは日野高ショップのほうを中継されたりでありますとか、NHKのほうでも日野高校の合唱部のほうに参加しております。また、近いところでは、日本海テレビで「冠ルーヤ」という番組のほうにも取り上げていただきました。それから、郡内の広報誌のほうには、日野高校の記事のほうを掲載して、郡内にも広く呼びかけているところでもあります。また、あとは、ホームページやツイッター等でも広報活動をしているところでもあります。そういうふう幅広く、いろんな方面に向けて日野高校の魅力等を広報しているところでもあります。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 昨年の原因も踏まえて、今年はやってらっしゃることなので、ぜひ多くのPRをして、多くの生徒を集めていただきたいと思います。

次に、町は、この8年間で日野高校の支援、これ、合計もう1億円以上しております。これ、うまくいきませんでしたでは、町民にもうちょっと説明がつきません。以前、町長は不退転の思いで日野高校を存続させるともおっしゃいました。不退転というのは、もう退かないと、成し遂げるということです。この存続には高校の教員の先生たちにも、今でももう必死にやっていただいています、さらにさらに本気になってもらわないといけません。高校との町との話合いが大切ですが、町長、町長自身はどれぐらい日野高校校長先生とお話をされていますか。どんな話をされていますか。どんな答えをもらっていますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 質問が何かちょっと分かりにくいんですけども、後ろのほうからいきますと、日野高の校長さんとどのぐらいお話をしてるか、現在は毎月定期的にお話をさせていただいてまして、どういうんですか、魅力化の進み具合、そして、やっぱりメルクマールというか、手応えっていうんですか、募集というか、学校案内をしたり、それから、みらい留学の情報発信をして、どのぐらい反応があったのかとか、どのぐらい来てもらえますか、それと、やはり県外ばかりでなく、県西部、通えるところ、それから郡内、いろんな中学校さんの反応、さらには魅力化推進協議会と一緒にやってやる機会のメイキングとか、そういうようなことも話をします。さらにはやはり、これも私、校長さんとお話ししますし、魅力化協議会ともお話をするんですけども、やはり今度は魅力化推進をどんどん進めていく中で成果っていうものですね、自己実現というか、日野高校でこんなことが達成できた、こういうふうな、例えばこういう、進路がすご

い多様になったとか、何かそういうような結果がやっぱり出ないといけないですよというように、そういうようなお話をさせていただいておりますが、最初のほうの質問がちょっとよく分からなかったんですけど、もし落ちがあれば、また聞いてください。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 毎月、話をされているということで、もっともっとコミュニケーションを取って、こちらの要望も伝えて、高校の本気度も高めていってほしいと思います。

ほかの教員の方ともお話しされますか、教員の方の本気度をどのように感じてますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 校長さん、教頭さんとはいろいろお話をしますし、あとは、いろんな地域の出かけてくださる教員の方もおられますので、そのときにいろいろお話をさせていただきます。あと、教員の方々の、どういうんですか、学校への帰属性っていうか、日野高校を盛り上げていこうっていう機運、それは、2年前か3年前だったと思いますけども、日野高校の教員の代表の方が隠岐の島前に行かれて、魅力化推進協議会のコーディネーターと一緒にいって、いろんな勉強をされて帰って、それをまた校内で共有されて、すごく、どういうんですか、教員の皆様方のモチベーションが高まりました。私はそれまでは、大変申し訳ないんですけども、私の高校時代も、これは前の議会、どっかの議会でも言ったかもしれませんが、教員というのは、まさに聖職だっという思いを小・中学校のときは持ってたんですが、高校ぐらいになると、サラリーマンかなど、何年か、職場を点々というような、それも仕方がないなと思って、そういう雰囲気だとやっぱりいけないなと思ってたんですけども、先ほど言いましたように、隠岐島前の雰囲気を学んで、それを校内で共有して、それを継続しておられる。校長さん、教頭さん以外の教員の方も日野高校を非常に大切に、魅力化を進めていこうという機運は大いに盛り上がっていると思います。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 高校の機運も高まっているということで、ますます高めていってほしいと思います。

次に、今度は地元の意識の高まり、これも話をしていきたいと思います。以前、私が一般質問したときに、高校の存続へは地元の意識の高まりも必要ではないかと質問しました。町長は、まさにその部分を盛り上げていきたいという答弁をされました。地元の意識を盛り上げるためにどのようなことをされていますか。そして、実際、意識の高まりは感じますでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埜田 淳一君） 地域の学校ということで、地元の皆さんが日野高校、そして日野高校生に関心を持っていただく、触れていただくっていうか、コミュニケーションしていただく、そういう機会が随分増えてきてるんじゃないかなと思います。これは高校生が、どういうんですか、地域に出かけていくっていうのも当然なんですけども、地域の方が、どういうんですか、地域の情報を持って学校のほうに行かれる、そういうこともございますし、本当に最近ですと、いろんな地域の催しに日野高校生が出られて、その中でいろんな活動をされる。それを地域の人が見たり、見るだけじゃなくて、会話をしていく。本当に地域の方も日野高校生、関心を高めていただいている、そういう行動が随分見られるようになったんじゃないかなと思います。

もっと具体例があるかもしれませんので、教育長、補足できれば、よろしく。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） では、お答えいたします。まず、地域との関わり等でございますが、日野高校さんのほうでは、授業の中での各系列、いろんなアグリライフ系列でありますとか、ヒューマンケア系列でありますとか、いろんな系列のほうでカリキュラムに沿って授業を組んでおられます。そうした中で、地域との関わり、地域を教材のフィールドワークとしての取組をされております。そういうことによって、地域との関わり、あるいは仕事を通しての関わりが大変強くなっているのではないかなんと思っていますところであります。また、餅つき大会であるとか、各地域でのイベントに、黒坂のほうでも参加されたりであるとか、あるいは清掃活動などもされております。そうしたことで、高校生の地域での活動を支援することを通じて、地域に高校があるということや、高校生が地域で暮らしているということの価値を地域の方も再認識していただけるのではないかなんと思っています。

さらに、高校生ならではの、そういった中には発想や問題発見、解決などあると思います。そういう問題解決の視点とか考え方が、高校生のそういった視点や考え方が、地域にも新しい発見が、地域のほうにもあるのではないかなん、そういう利点も、高校生と関わることによって、地域にはあるのではないかなんと思っています。

こうしたことが、地域におけるいわゆる魅力的で持続可能な教育環境の構築といいますか、そういうことが期待できると思っています。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 地域との活動について、地域と高校生との活動について、さらにお聞きします。日野町JK課についてお聞きします。町内の高校生にまちづくりに関わってもらおうと、日野町教育委員会が平成29年に高校生サークル、日野町JK課をつくりました。テレ

ビゲームを使った地域活動などで、マスコミにも取り上げられまして、話題になりました。日野高校のPRにも大きく貢献したと思います。

このJK課、現在どのような活動をしておりますか、これは教育長にお聞きします。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長、挙手をしてください。

○教育長（生田 求君） すみません。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） JK課についてお答えいたします。現在1名、いらっしゃるということですが、活動のほうは現在はしていらっしゃらないということでもあります。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 1名ですか。これは教育委員会が立ち上げに大きく関わってますので、もっと活動していただきたい。一時期は、もうマスコミにもどんどん取り上げられ、盛り上がっていたんですが、なぜ活動していないような状況になっているのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 遠藤教育課長。

○教育課長（遠藤 律子君） ただいまの質問、このJK課につきましては、企画政策課、それから教育委員会という流れで立ち上げをされたというふうに思っておりますけれども、それをコーディネートするために、その当時は1名専属でコーディネーターがいて、高校とやり取りをしながら活動いたしておりました。その後も違うコーディネーターが、またそのJK課については引き継いで活動を続けておりました。このたび、ちょっとコーディネーターも1人減になっております。本来ならば、その1名についても、もっと人数を増やすこと、それからコーディネートすることが必要だと教育委員会も考えておりますけれども、今の段階でそこにまだ取組をしていないということで、今年度の反省として、来年度以降、またそちらについても力を入れたいと思っておりますので、御理解いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 大変、今、残念な状況になっております。せっかく話題になって、PRにもなったJK課ですので、コーディネーターが替わられたということもありますが、多分、いなかった時期はないと思うので、そこは引継ぎをちゃんとしていただいて、もっと盛り上げてやっていただければと思います。これも地域との関わりも大変大きいですので、よろしくお願いいたします。

次に、高校の寮である双葉寮についてお聞きします。町は双葉寮に対して財政支援をしておりますが、双葉寮は人数がもう満員で、あふれているような状況です。これ、来年度の対応をどう

考えているのか、高校とはどういう話になっているでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 日野高校の県の寮、双葉寮に関しての御質問でございます。満員であふれているじゃないかっていうこと、そういうことではございません。まだ空きがございます。そして、どういうんですか、3年生、2年生、1年生、おります。3年生は卒業してまいります。その分は空きます。ただ、キャパとしては、どういうんですか、キャパシティーとしては、十分確保できるかという、もう少しキャパがないといけないなというような状況はあるのかなと思います。

今、双葉寮ばかりじゃなくって、地元っていうか、民間の方、これは県の制度がございまして、学生寮というか、県営の学生寮とか、そういうのがない高校も随分ございまして、県外生とか、通学困難生、そういうのを受け入れるための宿泊の提供をされる場所には、こうこうこういうような補助をしますのでっていうような制度がございまして、それを活用していただいて、生徒を住まわせておられるような状況もございます。以上です。

○議員（1番 中山 法貴君） 高校との話合いは。

○町長（埴田 淳一君） 高校との話合いは、当然これ、どういうんですか、57名であったり、76名であったり、そういう学生というか、入学者数を確保する上で、我々の認識、行政もですし、高校もですし、県もですけれども、全てが全て、例えば日野郡内の中学生でその数が満たされるかという、満たされない。県西部も、県西部はまだ多いんですけど、本当に中学校の卒業生がどんどん少なくなっている。やはり県外からの生徒さん、こういった方を迎え入れないといけない。そのときの一つの、どういうんですか、迎え入れる条件、重要な条件の一つとして住環境、住宅がちゃんと、住宅というか、寮があるかというようなことも当然考えておりまして、どうやって寮をうまく回していくんだと。寮が、要はハードル、寮の空き部屋の数が県外生を受け入れる上限値に基本的にはなるわけですよ。その辺をどうやって上手にあんばいよくするか、さらには民間さんが受け入れていただくようなことも、今働きかけて、いろんなところでしていただいております。そういうようなことでキャパを、キャパっていうか、キャパシティーという言い方のほうがいいのかもかもしれません、確保しよう、していかないといけないなというような話合いはさせていただきます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 双葉寮の支援について、双葉寮に入る生徒の寮費の支援もしております。県内生の寮費は一部支援、県外生の寮費は全額支援としていますが、これ、差をつける

意味ありますか、差をつけずに、県内生もどンドン来てもらおうと魅力あるよというふうにアピールすることも、そういう考えはありませんか、寮費無料というのはかなりの魅力だと思います。いかがですか、差をつけないようにするという考えは。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 寮費につきましては、確におっしゃるとおりでございます、県内生は1人について1万円の助成、県外については寮費全額の助成としておるところでございます。県内生と県外生と差をつけてるというのは、なかなか土日に帰られるということもないので、県外生のほうをより手厚くやっていかないといけないんじゃないかということで、県外生のほうに手厚い助成ということになっておるところでございます。

中山議員のおっしゃること、公平にしたほうがいいんじゃないかというようなことなんですけれども、来年の寮費の助成については、今、日野高校とも協議をしているというところがございます。ですので、ちょっとそういった意見も参考にしながら、来年度どうするかというのも判断していきたいと思います。

説明は以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） では、次の項目に移ります。

日野高校魅力向上推進協議会についてお聞きします。この中で、日野高校魅力化コーディネーターという、コーディネーターを町は契約しております。現在1名なんです、町は2名体制を本来想定しているんですが、この1名の、もう1名追加をしたいんですけど、応募がなかなか来ない状況が続いていると。応募がない原因をどう考え、対策はどのように考えていらっしゃいますか。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） コーディネーターについてお答えします。議員おっしゃるとおり、現在、1名の状態がしばらくの間続いております。ホームページ等で、それから地域おこし協力隊として募集しているウェブのほうにも載せて募集しているところですが、なかなか採用というか、来ていただくという状況にはなっておりません。何件か問合せがあったんですけども、最終的に来ていただくという状況には至っていないというのが現実であります。

その原因ということですけども、やはり年度の途中だったというようなこともあり、なかなか途中から来ていただける方が、そういう方はもう既にどっかに行っておられるということで難しかったのかなというのが一つです。現在は、これまでもいろいろな関わりを持っていただいた方

を通じて、その知り合いの方であるとか、そういうところを使ってお願いをしているところでもあります。何とか今度は、4月からは2名体制でできるように、いろんなところに声をかけながら、情報を張り巡らしながら、何とか2名でというふうに現在取り組んでいるところでもあります。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 早く2名体制になるようにしていただきたいと思います。

次に、活動についてお聞きします。今年の10月に境港市で鳥取県民カレッジ講座というのがありました。テーマは、地域を育む「まちに飛び出す高校生」というイベントがありまして、ここで日野町も教育委員会の担当者と日野高校魅力コーディネーターが行きまして、日野町の活動を発表しました。その模様がインターネットでも中継されたのですが、まず、町長と教育長、これ、御覧になったかどうか、お聞きします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 大変申し訳ございません、私は見ておりません。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） 私のほうも参加する予定で申込みをしていたんですけども、別の会が入ってしまいまして、残念ながら参加することはできませんでした。ただ、内容については、担当のほうからも詳細のほうは聞いております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） この県民カレッジ講座の発表の中で、日野町の担当者が、高校生が地域に出ていく活動についてなんですけど、始めた頃は、役場のほうから地域に何かやらせることないですかねと御用聞きに伺っていたが、最近は地域のほうから高校生出してよと要請があるようになり、やっと認知され始めた。これからもどんどん地域からお声がかかるようにしなければならぬ、そこが狙っていくところだ。こういうように話されていました。

これを聞いて、町長、教育長、どう思われますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 一連の質問の中でもあったと思いますけども、地域が期待してる、また学校が期待してる、双方向で、どういうんですか、情報共有とかいろんなことができる、できるといっていか、もっと深めていきたいということだと思いますので、いいことやなと思いますけど。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） 高校生が地域に出かけていくことについての御質問ですが、地域からそういうふうには高校生にぜひ参加してほしいという要望があることは大変うれしいことだと思いますが、未成年の高校生でもあります、また、例えば寮にいる生徒でありますと、なかなか親御さんの承諾を得ることが難しかったりしますので、内容やら頻度などによるとは思いますが、どんどん可能な限り出かけて行って、地域の方と交流を深めていければいいなと思っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） この発表を見て、私はがっかりしました。何かありますかと地域に聞いて回ると、それが発展して、地域から、行事があるから来てと、こういうのがあるから高校生出してというふうに進展したということだったんですけど、8年間やって、これですか。こうじゃないですよ、生徒の興味関心をいかに引っ張り出して、生徒自らそれをできるようにする。そして、それをいかに地域全体でサポートするか、これが魅力化です。それをコーディネートするのがコーディネーターです。8年間やって、これですか。戦略が全く見えません。日野高校魅力向上推進協議会の活動や魅力コーディネーターの活動、8年間やって、これでよしとしますか。

○議長（小谷 博徳君） どこに聞くだかい。

埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんは魅力化推進協議会のいわゆる計画書も恐らく読んでいただいていると思います。突出して今の部分だけをクローズアップしているというわけじゃなくて、日野高校の魅力化を進める上での一つの手段として、そういうこともあるよっていうことでございます。

さらに、8年間やって、たったこれだけかっていうんじゃなくて、いろんな地元とのつながり、そういう核となる人材っていうか、地域、そういったものをどんどんどん広げてる中でのお話でございますので、新たな分野を開いて、もっと高校生、日野高に通っている生徒さんにいろんな世界を見ていただきたい、また、いろんな人と接していただきたい。これは絶えず、どういふんですか、回転させていかないといけないと思いますし、大きくしていく、そういうような考え方っていうことで御理解いただきたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） それはもう当たり前です。それ、もう始めて1年目でやるようなことですよ。生徒自らの、生徒がこうやりたい、こういう考えがあるというようなことを引っ張

り出して、それをサポートしないとイケないのに、やってることは何かありますか、高校生出しましょうか。これ、1年目ですよ、8年やって、これはありません。もっと生徒のことを考えて、真剣にやっていただきたい、そう思います。

地域と高校をつなぐコーディネーターなんですけれども、どんどんコーディネーターさんにも力をつけていただきたい。コーディネーター、どんどん替わってますので、なかなか経験もつかない。コーディネーターさんの研修はどれぐらいされていますか。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） コーディネーターの研修についてお答えいたします。コーディネーターさんは、全国のそういう先進的な取組をしているところであるとか、そういうところに出かけて行って、研修等は今年度もされました。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 私はがっかりしましたと言いましたが、期待もしておりますので、ぜひやっていただきたい。埜田町長はこの協議会の会長ですので、リーダーシップを発揮して、高校と話を積極的にする、ワーキンググループを動かす、不転退の思いでやっていただきたいと思います。

次の項目に移ります。ふるさと教育推進協議会につきまして、こちらの公設塾をやっております、ここで。公設塾の講師も、私が聞いたところ、ふるさと教育にあまり経験がないと、直接本人たちに聞いたんですが、という方たちでした。これもどんどん、重要なポジションでありますので、力をつけていってもらわないといけません。ここのサポート、研修など、きちんとできていますか。どのようにされておりますか。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） ふるさと教育推進協議会の御質問です。委員さんは研修をしていないのではないかという話でしたが、研修のほうはしております。先日も、県外のほうにも出かけて行って、そういったところの取組のほうも研修もしております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） ちょっと、もっと深く聞きたいですが。

○議長（小谷 博徳君） 深くじゃなしに、時間がないので、端的に。

○議員（1番 中山 法貴君） 時間がないので、最後に、これも米百俵の長岡に伝わる言葉です。国が興るのも、滅びるのも、町が栄えるのも、衰えるのも、ことごとく人にある。これ、長岡に伝わる言葉です。

○議長（小谷 博徳君） 回答を求める質問してください。

○議員（1番 中山 法貴君） 教育と人材育成は最重要項目です。しっかりやっていきましょう。
以上です。終わります。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員の一般質問を終わりました。

○議長（小谷 博徳君） 次に、8番、佐々木求議員の一般質問を許します。

8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） それでは、通告に基づきまして、2点にわたって質問をやりたいと思います。

第1点目は、今、鳥取県の西部で大型風力発電事業が計画をされております。事業主は合同会社NWE-09インベストメントという会社で、伯耆町から江府町、南部町から日野町において大型の風車32基を最大出力14万4,000キロワットの風力発電事業を計画しております。この日本風力エネルギー株式会社が代表となっておりますが、資本は外資系であります。アジア太平洋地域最大の独立系の可能エネルギー発電事業者ということですが、県は既に環境影響評価方法書の説明会を何度か行い、町も意見書を上げておられますが、これに対する町の基本的な考え方をまず問いたいと思います。

次に、現在、国においては、厚労省が社会保障審議会を行っております。ここでは非常に重要な改正がいろいろ医療から介護に至るまで行われております。そこで、時間の制約もあり、全てを議論できませんが、3項目にわたって質問を行います。そのほかにも、医療の窓口負担を1割から2割にするなどの動きも出ておりますが、第1に、介護保険利用料の2割への引上げであります。これによって利用者の増加が1割から2割になるわけです。

第2に、要介護の1、2を外して、都市部ではそれを専門にする事業所が多数潰されましたが、今回は要介護1、2を外すという問題が出ております。

3番目に、ケアプランの作成を無料から有料化することについて、町の対応や考え方を問いたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 8番、佐々木議員さんの御質問にお答えします。通告書に基づいて御答弁させていただきます。

まず初めに、鳥取県西部で進む大規模発電計画についてのお尋ねでございます。

脱炭素や地球温暖化の問題については、日野町といたしましても取り組まないといけない課題

でございます。自然エネルギーの利活用という、その対策を構成する重要な要素でございます。一方で、自然エネルギーといいましても、大規模な開発ですと自然環境への影響についても懸念もあるわけでございます。懸念されるのは、大きな風車を建てることによる山腹崩壊による土砂災害の危険性や、土砂流出による水質悪化の問題、低周波や騒音などへの懸念、景観への影響というようなことがございます。現在のところ、事業者のほうでは、生態系や地形の調査などの調査をしておられ、環境影響調査の準備書を県に提出する準備を進めておられるという段階のようでございます。

その中で、日野町内のどの場所に幾つ風車を建てるかといった、そういったことは現在我々にも知らされておられません。現在のところ、業者のほうにも進捗具合については速やかに町や地元自治会にもしっかり説明するように求めているところでございます。一方、鳥取県としての対応、県の対応でございますが、町同様、再三しっかり住民説明をするように求められていると承知しております。

最終的には、地権者と設置事業者との民対民の交渉になります。実際、進めるとなると懸念される内容があったとしても、手続的には町としては対抗手段がないということも、これも事実でございます。我々としましては、住民説明をしっかり行うように求めてまいります。そういった場でしっかり意見を事業者側に伝えていただければと思っております。今後、準備書が県に提出され、これについての意見照会が地元自治体にもございますので、住民の方の御懸念なども含めて、言うべきことはちゃんと申し上げていくということで対応したいと思っております。

次に、介護保険制度の新たな動きについて、社会保障審議会の現在の議論の中での3項目の御質問にお答えいたします。

初めに、介護保険サービスの利用料2割負担者が増加することについてどのように考えるかのお尋ねでございます。現在、厚生労働省の所管する社会保障審議会介護保険部会においては、2024年の介護保険制度改正に向けての審議の中で、介護サービスの利用者負担割合についても議論が行われているところでございます。介護保険制度創設時、利用者負担割合は所得にかかわらず一律1割でございましたが、平成26年の法改正で、保険料の上昇を可能な限り抑えながら、現役世代に過度な負担を求めず、高齢者世代において負担の公平性を図っていくため、一定以上の所得のある方について負担割合が2割となり、平成29年の法改正では、介護保険制度の持続可能性を高めるために、現役並みの所得を有する方の負担割合を2割から3割に引き上げた経緯がございます。

このような過去の経緯も踏まえながら、今後の利用者負担について、審議会の論点としまして

は、介護サービスは医療サービスに比べ、長期間利用するという特徴があること。介護保険では2割負担が医療保険に先行して導入された経緯などを十分に勘案しながら、高齢者の方々の負担に十分配慮し、必要なサービスの提供を受けられることを前提に検討していくこととなっております。このような審議会の状況を見ても、2割負担の対象拡大については決定事項ではないですが、私としては、利用者負担が増えれば必要があってもサービスを減らさざるを得ない人が増加することが推測されることや、後期高齢者医療保険の利用者負担が引き上げられる中、さらに介護保険の利用者負担が引上げになることには大きな不安があり、それは制度への不信感につながるおそれもあることから、安易な利用者負担増とならないよう、丁寧な議論をすべきであると考えております。

次に、国は要介護1、2の人を保険給付対象から外し、町の総合事業で対応を求めているが、どう対応するかのお尋ねでございます。このことにつきましても、社会保障審議会において要介護1、2の介護給付の在り方については以前から議論がなされており、市町村が実施する総合事業への移行については、実施状況や介護保険の運営主体である市町村の意向、利用者への影響等を踏まえながら検討を行うことが適当であるとされているところでございます。現在行われている審議会では、総合事業の実施状況や介護保険の運営主体である市町村の意向、認知症の方も多い要介護1、2の方について、その要介護状況に応じて必要となるサービスの質や内容、今後の介護サービス需要の大幅な増加や訪問介護サービスで特に顕著である人材不足の状況を踏まえた見直しの必要性などの幅広い視点から検討していくこととされております。

町の対応としまして、要介護1、2の方には認知症の方も大勢おられることも含めて、重度化防止の取組につきましては、専門的な知識や技術を持った専門職の関わりが不可欠であり、これは地域ごとにばらつきのあるサービス形態が生じてしまう可能性も高くなります。介護サービスの効果的、効率的、安定的な提供が期待できないことから、移行には反対の立場での対応をしたいと思っております。

最後に、ケアプラン作成を有料化することについてはどう対応するかのお尋ねでございます。ケアプラン作成に要する費用につきましては、現在、利用者負担は求めていません。これは、介護保険創設時に、ケアプランの作成という新しいサービスを導入するに当たり、要介護、認定者などが積極的に介護サービスを利用できるようにすることを目的としたものでした。このケアプラン作成に関する給付の在り方についてはこれまでも議論されており、令和元年12月の審議会では、利用者負担を導入することについては、利用者やケアマネジメントに与える影響を踏まえながら、質の高いケアマネジメントの実現や他のサービスとの兼ね合いなど、幅広い視点から引

き続き検討を行うことが必要とされた経緯がございます。これを受けて、現在も審議会にて議論がされているところでございますが、町としては、ケアマネジャーは本来の業務であるケアマネジメントに付随して各種生活支援等を行っているほか、公正、中立性が重視されている点を踏まえ、一部負担を求めている他の介護保険サービスとは異なり、現行給付を維持するべきと考えます。また、現在の物価高騰や新型コロナウイルス感染症により経済も低迷している状況で、これ以上の負担は回避すべきとの立場で対応していきたいと思っております。

なお、まだ確定ではございませんが、2024年度からのケアプラン有料化については見送る方向との新聞報道があり、少し安堵しているところでございます。今後の審議会の検討状況につきましては、担当課でしっかり情報収集を行うよう指示しているところでございます。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） 風力発電についてであります。町長御存じのように、アジア太平洋地域で最大の独立系の再生可能エネルギー発電事業者ということですが、知っておられると思いますが、北海道で以前、中国系の資本が入って、山林原野を買って、大変な事態が起きました。水源がまともに確保できないというようなことや、交渉に外国に出かけるようなこともやらざるを得んような状況が起きました。これと同じことが突如としてこの地域にも起きるといことになります。したがって、個々の所有者、土地の所有者が土地を売ることは、あるいは木を売ることは簡単でしょうが、そこから先、何かあったときには、とても交渉ができる相手はありません。そういうことを考えると、これは本当に今のうちに真剣に考えて対応していかないと、大変なことになる。よその国の土地が山のてっぺんにできたような感じになります。

知っておられるように、そういう大型の風車というのは、今、私の知っている限りでは、通常9号線の横通りに建つので、あれ74メートル、5メートルだそうですが、これが倍の150メートルの大きなものが建ちます。そういう計画になっております。これは、そういうのを32基も並べて町境沿いに溝口のほうにずらりと山のてっぺんに建つ。そして、もう一方は古峠山から法勝寺のほうに向けて建つという内容です。そうすると、大体発電能力でいうと、俣野で120万キロワットですから、黒坂の発電所が1万5,000キロワットです。調べてみるとそうになっておりますが、これのちょうど黒坂の10倍の規模の発電能力を持つというものになってきます。したがって、これだけのものがトラックで山のてっぺんに道をつけて持ち上げられると、そうなる、どうしても山の地肌の崩壊や、あるいはその後の保全という問題が起きてきます。とてもこうした問題は、個人的にはもう対応し切れないのは目に見えてます。

したがって、そういう事態を指摘されたときに、交渉する相手が個人では、もう絶対に不可能だと考えられますが、町がそういうときにはどうしても要望が出てきたりすると思うんですが、こういうときにはどういう対応をしようと思っておられますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 大規模風力発電計画についてのさらなる追及の御質問でございます。本問のほうでもお答えしておりますけれども、エネルギーの多様化、いろんな手段でエネルギーを確保していく。中でも自然エネルギーの利活用、そういったことは、また一つの大きな課題である、課題というか重要性があるっていうようなお話もしました。ただ、今回のこういった巨大風力発電、こういったものについては、自然災害であったり、土地の変革時、土地を削るとき、それから削った土地の維持、それから景観、いろんな面で、どういうんですか、懸念っていうか、そういうものがあるんじゃないかっていうようなお話もしました。計画の説明、そういったことについても、地権者、地元への説明をしっかりとしなさい、そして、一番御質問のところにございましたけれども、住民説明会、そういうときに、地域の方が役場にもちょっと一緒に聞いてほしいっていうようなお話をぜひしていただいて、役場のほうも一緒に説明を聞かせていただいきたいと思います。聞かせていただくばかりじゃなくて、その場所で住民の方、地域の方がどういふ思いをお伝えになったのか、そういうのをしっかりと把握していきたいと思います。それが結局、環境アセスのときの県が地元自治体に意見照会をするときの一番の基盤になりますので、そういうふうにご考えておりますし、また、そういうことをしないといけないなと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） 私は町が県に対して上げられた意見書を資料提供していただきまして、読ませてもらいました。まさに言われるとおりでありまして、総括的事項で3項目、そして、個別事項においては7項目にわたって、非常に幅広く危惧を述べておられます。まさに私もそのとおりで思うんです。問題は、いずれについても、皆さんが項目についても指摘してあるように、住民にきちんと事前に説明をしていく、業者だけの責任にしないで、やっぱり対応していくということが非常に大事ですが、この辺については、単に建てる云々だけじゃなしに、環境保全も含めて、あるいは、そうした中には日野町でないと述べられない課題もあります。それは、例えばオシドリであります。これまでは、この前あそこへ観察小屋もつくったんですけども、町が直接かんでいかないと言えないような課題でもあります。ですので、これはしっかりと対応をしていく、腹をくくった活動が必要だと思いますが、問題は、こうした懸念がよくまとめられて

と思うんです、私は。こういうことが危惧されるので、住民の皆さんも事前にしっかりと参加してくださいということ自体をお知らせすることが大事だと思うんです。だから、人ごとにしないで、例えば離れた地域であっても、大体ここでも指摘してありますが、2キロぐらいのところ民家があることになるということを指摘しておりますが、その2キロの範疇でなしに、日野川を渡ったところ辺りも非常に問題になってくると思うんです。そういう際に関係住民としてしっかりと説明や勉強に来てくれと、そういうお知らせをする必要がある。少しでも住民に知らせていかないと、例えば音によるあれや何か、公害なんかは結構あちこち出ておりますが、そういうときに、後の祭りではいけませんので、事前にしっかりと周知するために、そこで町が気合を入れた取組をする必要があると思うんですが、その決意ありますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 重ねての巨大風力発電の関係でございます。御質問の御趣旨っていうのは、要は土地所有者ばかりじゃなくって、関係住民とか関係集落、幅広く拾って、拾ってというか、事業者さんがね、幅広く関係住民さんに説明をまずするべきじゃないかというお話かなと思います。まさにそうだと思います。これは県のほうもそういうお話をされてますし、いろんな事象で、ですから、環境影響評価のところでもいろいろ書き込むときには、できるだけ開発、これは私の経験からですけど、開発業者さんというのは、もう関係地区を絞りたいんです、できるだけ。でも、そうじゃなくって、要は環境影響評価のときには、少しでも関連性がある、牽連性があるっていうようなものは幅広くエリアを広げて計画の説明をしていきなさいっていうようなふうに配慮書のあたり、さらには方法書のあたりで書き込ませていただいていると思います。住民さんへの、どういふんですか、説明、しっかり丁寧にしてほしいっていうことでいきたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） 分かりました。業者の資料や考え方というのは、どうしても、言われたように、対象を絞ったり、あるいは都合のいいデータをつくり上げていくことも可能性が強いです。ですから、できるだけそうじゃなくって、関係住民、広く周知せしめる、そして、この問題に対して関心を持っていただくようにすることが必要かと思います。

私たちも風力発電そのものに反対をしているわけじゃありません。あれだけ大きなものが頭の上でぶんぶん回ってくると、必ず環境に影響してきます。そこら辺を、後から健康被害が出た、あるいはオンドリが来なくなったとって騒いでも、もう遅い。もう相手が相手だけに、事前にそういう活動をやる必要があると思いますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

次に、介護保険の問題について入りたいと思います。実は、ここの、ちょっと先に申し訳あり

ませんが、3つ上げておりますが、最後の3番目のケアプランの作成の有料化の問題、一番最後に御答弁いただきましたけど、実はこの質問書を提案したときにはまだ報道がされておらずで、これは大変だということで、私のほうが知ったのはその1週間後ぐらい後ですから、これは了解していただきたいと思います。ただ、この中で、前後して申し訳ありませんが、注意していただきたいのは、これも、そういう議題がこれまでも度々上がってくることを報道されております。これは非常に警戒する内容です。今後の動きの中で、また3年後の見直しのときに、これを持ち出してくる可能性がある。どこで住民負担を増やそうかと思って必死になっておるわけですから、それが1点で、誠に申し訳ないですが、そういうことで御了解をいただきたいと思います。

第1点目のサービスの利用料の問題であります。これも度々出てきてまいりました。これは、私は実は資料提供を求めて、これも一体要介護の1と2の方で、先ほど述べられたように認知症の方もたくさんおられますので、どれぐらい対象者がおって、どれぐらい金がかかってくるかというのを聞いてもらいました。そしたら、教えていただいたんですが、令和4年11月現在で対象者、要介護1、69人、要介護2が50人、つまり119人、約120人がおられます。この人数の多さに持ってきて、給付費が、令和3年度ですね、要介護1で1億1,500万、要介護2で1億1,300万、これがかかってくるわけです。政府の言うように、基礎自治体がやりたければ、自分たちの計画の中でやってくださいという投げ出しをしたわけですが、これは下手をしたら2億円、2億円まで丸々かからんとは思いますが、いずれにしても、かなりの金額が押しつけられるということになるので、何としても阻止しないと、地方自治体、小さなうちのような自治体は本当に大変になる。今までどおりのサービスはもうできなくなってしまうということから考えると、何としてもこれは反対の声を上げていかなきゃなりません。例えば具体的には、国会議員が鳥取県からでも5人も、6人か、出ておられると。そういうところにちゃんと声をかけられましたか。

○議長（小谷 博徳君） 埒田町長。

○町長（埒田 淳一君） 国会議員の先生方とか県に対していろんな要望をさせていただく中、それは西部の町村会でまとめ、それから県の町村会でまとめ、先ほどのちょっとお話もございましたけど、今年は12月19日に県のほうに上げていくっていうようなものでございます。その中に、大変申し訳ありませんけど、おっしゃられる部分が入ってたかどうか、ちょっと記憶が定かでないんで、ちょっと確認はできませんけれども、今はちょっと確認できません。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） 実は私は、今回の動きの中で非常に大きな教訓があると思うんで

す。それは最初に申し上げました、いわゆるケアプランを作成するのを有料化しようとしたのをやめたということです。これはなぜやめたかという、もう激しい批判が出てきたんです。一部の新聞には、マスコミが報道していましたが、そういう提案がなされた後に、直後にもう激しい批判が出た。私は当然だと思うんです。今、年金が、国民年金がこれだけ大変なときに、実質引下げになつるとときに、もうそれこそ細々と生きて、失礼な言い方ですが、頑張っておられる方が多いと思うんです。そういう方たちが計画をつくる段階から負担が起きることを、やっぱり検討をやめとらんというのは大変なことだと思うんです。一斉にこういうときに下の自治体が声を上げる、それで、そして国が上で、町のスタンスが下っっちゃうことはないんです。地方自治法で見ても、基本は国も県も町村も対等、平等ですよ。ですから、国会議員たるもの、鳥取県民がどういう生活実態か分かっとな、話にならんわけです。そういうところに必ず声を上げる、個別にでも上げて、どんどんこういう時期に言わないと、一旦決まったら、上が法律で決めたからということになると思うんですが、町長、その辺の流れっちゃうのは、本当に地方が声を上げないといけない。しかも基礎自治体が一番大変なわけですから、上げないといけないと思うんですが、その辺どうでしょう。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員おっしゃられるとおりで、どういうんですか、黙ってたら伝わらないっていう、確におっしゃるとおりだと思います。課題意識を持って、伝えるべきものはちゃんと伝えていく、そういう機会をつくっていくっていう考え方でないといけないっていうふうに私も思っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） ありがとうございます。私もそういう思いを強くしております。

本当は、私が今回取り上げようと思った審議会にかかると内容というのは大変な数があります、7項目以上あります、大きなテーマで。そういうのを考えると、一つ一つを上げれば切りがありませんから、以前、医療費の窓口負担2割にする問題については、ここで述べたことがあります。あれと同じで、国が言うからしようがないわではいけないので、これはぜひ頑張ってください。こういうことを懲りずに何度も何度も検討をして、どうやろうかとしとる。これはもう国の責任を曖昧にする、本当に地方自治、私は地方自治を本当に破壊してしまう行為だと思いますが、私はそれぐらいに思っるとんですが、町長、どんな認識でしょうか、そこんところは。やっぱりきちっと文句言わんといけんと思っております。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長(埜田 淳一君) ちょっと抽象的になって申し訳ないんですけども、現場でっていうか、現場でいろいろ課題が出てきて、それは制度設計が悪い、そういう制度設計が入れば地域が困る、そういうようなものについては、ちゃんとそうならないように、また、改善してもらうように、そういうようなことは、いわゆる情報発信っていうか、伝えていかないといけない、そう考えております。

○議長(小谷 博徳君) 8番、佐々木求議員。

○議員(8番 佐々木 求君) 本当は言いたかった点は、参考までにちょっと聞いてほしいんですが、老健施設などの相部屋、多床室の有料化ということも検討しよるんです。こういうことは、何が言いたいかといいますと、こういうことを進めると、利用者の負担が増えるだけではなくて、事業者が困るようになってきます。むしろ事業者は働いておられる人の給与が低い、水準が低いために、先ほど最初に申し上げたように、訪問介護を専門にするような事業者は、もう全国で私が見たら、平均して1つの自治体に1つはなくなるぐらいな、この前の改悪がありました。こんなことをいつまでも許しとると、介護保険制度そのものが私は崩壊してしまうと。つくったもの、こういう制度をですよ、なくしたらいけない、そういう思いです。

そこで、もう一つ最後にぜひ理解しておいていただきたいのは、利用料、医療費もそうなんですが、1割の分を2割にしたり、2割を3割にするという流れは、当初、必ず高額所得の人を上げるということをやりますが、年間で200万円以上の所得の方には2割負担していただくとかいうように上げるんですが、これがもう常套手段になつとるんです。小さく産んで大きく育てる。消費税が同じようにそういう形で上げてきましたけど、増税していくときの一つの手段だと思っておりますが、町長、その辺、増税についてのやり方をどう思っておられますか。利用料も含めてです。

○議長(小谷 博徳君) 利用料だな。

○議員(8番 佐々木 求君) 利用料、利用料。

○議長(小谷 博徳君) 埜田町長。

○町長(埜田 淳一君) 本問のほうでお答えした部分の利用料っていうことですか。それは本問のほうでお答えしましたように、ちょっと考えていただかないといけないなっていうようなお話をさせていただいたと思います。

今、議員さんがいろいろおっしゃいまして、お話を聞いておりますと、非常に介護保険制度、一つの立ち上げのときに、どういうんですか、利用しやすい制度であったんだけども、それがいろんな環境の変化とか経済の変化、そういった人口の変化とか、そういうようなので、なかなか

うまく利用できない、利用者っていうか、保険者に負担が転嫁されるような傾向が少しずつ顕著になってきてる、それはどういうんですか、押しとどめないといけない。介護保険制度自体の価値はあるけれども、それを直していくっていうか、改変にあって、いろんな視点を持って制度を変えるんだったら変えるんだけども、いろんな視点を正しく現場の実態を踏まえた視点を持ってもらわないといけないなというようなお話であったように思いますので、おっしゃられるとおりだと思います。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） 先ほども数字を申し上げましたが、120人からの人が対象外となると。そうすると、今までと同じようなサービスを受けることができないし、それだけの負担をしていこうと思ったら、もうとても国民年金の方やなんかは大変です。爪に火をともしようとして生活をしておられる方々が何でここまでいじめられないといけないのかと、そういう思いが私はします。

それは私の思いであります、地方自治体自体も潰れるということになりかねない。下にばかり責任を押しつける政府のやり方っていうのはとっても腹が立つんですが、こういうところから防波堤としての役割を地方自治体が果たしていくためにも、しっかりと意見を上げていただきたいんですが、最後に一言だけ、そういう思いがあれば、決意を述べていただいて、質問を終わりたい。

○議長（小谷 博徳君） 再度いうことで、埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） どういうんですか、それぞれの追及のところと同じようなお話をいただいています。やはりこういう制度、特にこの制度については現場の声っていうのが非常に大切でございますので、しっかり現場の声を捉えて、申し上げなければいけないことはちゃんと申し上げていきたいと思えます。

○議員（8番 佐々木 求君） 質問を終わります。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員の一般質問が終わりました。

○議長（小谷 博徳君） 以上で午前一般質問を終了します。

ここで休憩をいたします。再開は1時15分といたします。休憩。

午前 11時45分休憩

午後 1時15分再開

○議長（小谷 博徳君） 再開をいたします。

午前に引き続き、一般質問を行います。

2番、梅林敏彦議員の一般質問を許します。

2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） それでは、質問に入ります。

私は今回、日野高校双葉寮の現状と今後について伺います。その趣旨としましては、日野高校には町外、県外からの入学者のために双葉寮という学生寮があります。特に、近年は県外生の寮費を無料にしたことで、全国各地からの寮生が増えています。家族と離れ、知らない土地で暮らす3年間は生徒にとってどんなものになるか、寮の在り方に大きく関わってきます。日野町を好きになって卒業していつてくれること、それは生徒の将来にとっても、そして日野町の将来にとっても、とても大切なことです。

具体的な質問。1つ、双葉寮の学年ごとの寮生数と主な出身地を伺います。

2つ、町長は寮生が日野町での3年間をどのように過ごしてほしいと思っているのか、また、そのために双葉寮はどうあるべきだと考えているのか伺います。

3つ、日野高校では地域との交流や地域活動を通じた人間形成を教育に取り入れています。そこで伺いますが、チャンネルひのや中海放送、あるいは行政無線放送など、町民が当たり前に受けている地域情報が寮生にもきちんと届けられているのでしょうか。

4つ、双葉寮には寮生の生活指導や相談相手となる舎監を2名置くことになっていると聞いていますが、現在もそのとおりになっているのでしょうか。

5つ、ここ3年、県外からの入学者を増やすPR手段として、地域みらい留学、オンライン学校訪問などの模様が映像で全国に発信され、効果を上げてきました。しかし、今年度はそのどれ一つとして実施されていません、なぜですか。ここでちょっと申し訳ないんですが、撤回といいますか、私の情報収集にミスがありまして、今年度は一度も実施されていないというのは間違いでございまして、この通告書を提示した後に、今年も行われていることが分かりました。その上で、この2つの実施状況について伺いたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 2番、梅林議員さんからの御質問にお答えいたします。

まず初めに、双葉寮の学年ごとの寮生数と主な出身地についてのお尋ねでございます。現在の双葉寮の学年ごとの生徒数は、1年生が14名、2年生が6名、3年生が7名で、合計が27名となっております。また、2年生の生徒3名が町内に下宿されております。県内の寮生は、その

うち6名でございます。それ以外の県外の寮生の主な出身地は、東京都であったり、静岡県であったり、大阪府、愛媛県、山口県などでございます。

次に、寮生が日野町が3年間をどのように過ごしてほしいと思ってるか、また、そのためには双葉寮はどうあるべきかとお尋ねでございます。様々な地域からの、そしてそれは多様な価値観を持つ生徒たちが共に学校生活を送り、学習することで、コミュニケーションスキルや人間力を身につけながら、日野町に住み、地域とつながることによって町の魅力を感じたり、愛着を持って、将来も地域に貢献したいという気持ちを抱くよう、充実した寮生活であってほしいと思います。そのためにも、双葉寮は生徒が安心して過ごすことができる環境が整っていること、また、地域住民とも関わることで、日野町に住んでよかったと思ってくれるような寮であってほしいと考えます。

次に、チャンネルひのや中海放送、行政防災無線などで地域情報が寮生に届けられているかとお尋ねでございます。伺いますと、双葉寮には食堂にテレビが1台設置されておりますが、中海テレビは視聴できません。チャンネルひのは日野町のホームページで視聴することはできます。行政防災無線は舎監室に設置されており、生徒の各部屋には設置はされておられません。

次に、双葉寮には寮生の生活指導や相談相手となる舎監を2名置くことになっていると聞いていますが、現在もそのとおりになっていますかとお尋ねでございます。双葉寮は舎監が2名と教員1名の体制で1週間の勤務を交代して行っておられましたが、高校に確認したところ、11月末で舎監の方が1名退職されたため、12月からは舎監が1名になっているとのことでございました。早急に舎監を補充したいと高校からは伺っているところでございます。

最後に、地域みらい留学、オンライン学校訪問などの実施についてのお尋ねでございます。日野高校では、過去3年間、地域みらい留学でのオンライン学校説明会を実施されておりますが、今年度も引き続き実施されており、現在までに26名の個人相談につながっているとのことでございます。また、2年前からTOKYO FMにお世話になり、「SCHOOL OF LOCK!」でオンライン学校訪問を実施し、ユーチューブで放映されました。今年度は「SCHOOL OF LOCK!」の校長、教頭が日野高校の、まさにこの現地に来られ、Weスポーツ体験や双葉寮、射撃部などを見学された模様もユーチューブで公開されているところでございます。さらに、日本海テレビの「冠ルーヤ」やBS Sラジオ「いまどきハイスクール!」にも日野高校生徒が出演するなど、様々なメディアによって情報発信されているところでございます。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 説明を回答いただきました。最初の質問から始めたいと思いますけれども、先ほど双葉寮の現在の生徒数、寮生の数が分かりました。全部で27名、そして、そのほか下宿している生徒が3名、全部で30名ということになるんですけども、そのうち6名が県内から、県外生は実質的に24名ということになります。全校生徒の数をちょっと知りたいので、恐らく100名近くだろうと思いますが、正確な数字は何人になってるのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 町長、分かりますか。

埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 今、詳しい数字は教育のほうで調べてますけど、私の記憶ですと、間違ってるかもしれませんが、今年入学が37、それから去年が44、その前が27ぐらい、それを足すと幾らになるのかな、そのくらいだと思います。ちょっと正確かどうか、ちょっと分かりません。補足させます。

○議長（小谷 博徳君） 遠藤教育課長。

○教育課長（遠藤 律子君） お答えいたします。日野高校の生徒、在籍者数ということで、令和4年4月7日現在でございますが、1学年が37名、2学年が38名、3学年が22名、合計で97名と伺っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 97名ということですね。としますと、97名のうちの24人が県外生、4人に1人が、ほぼ4人に1人が県外生ということになるんですね。これは、それ以前に比べて、県外生を募集する以前の頃に比べて、恐らく学校の雰囲気も当然変わってくる、きているはずなんだと思います。私がかつてのコーディネーターさんに当時と比べてどうなんだっていうことを聞きましたら、アグレッシブになった、つまり、積極性が出てきたっていうふうに言っておられました。恐らくこれは、当然、毎日生徒たちと接しておられる先生方は気づいておられると思うんですが、その辺りについての報告なりは町長のほうには届いているのでしょうか。あるいは、町長自身が感じられたことってあるのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） まさに県外っていうか、多様な価値観を持つ生徒さんっていうか、子供さんが集まってこられてるのが現状かなと思います。そして、議員さんおっしゃいましたけども、高校生がアクティブっていうか、いろいろ変わってきたなっていう思いを私も持ったんですけども、先月か今月、校長先生とお話する中で、校長先生のほうから、どういうんですか、自分の考えとか自分の気持ち、私はこうなりたいっていうのを自ら発信、発信っていうんですか、

言葉にして相手に伝える、そういうような生徒さんが増えてきた、私もそう思うんですけども、そういうようなお話をさせていただいて、いわゆる魅力化であったり、ふるさと教育、そういったものの取組の一つの成果がそういうところで見られてきたのかなっていうふう感じたところでもあります。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 県外生が入学してきた、だんだん増えてきたということで、これまで大体寮費を無料にした効果が出てきたというのは、数が増えてきたということで論じられてきた面が強かったように思うんですが、実は、もう一つのよい面として、今言われたようなことが起こっているというふうに思うわけですね。新しいエネルギーが出た、これ、後でまた紹介することになると思いますが、「SCHOOL OF LOCK!」というのがありまして、これは映像になってもう全国的に流れているんですが、その中で双葉寮の映像も取材風景も出てきています。そこで言われていること、子供たちが言っていることが、元気が出てきた、そして、生徒会の成り手が増えてきたというような内容のことも出てきています。これは着実にいいほうの変化が表れてきているというふうに思うので、実はこここそを日野高校の魅力として、県外生と県内生、都会から来た人と田舎の子たちと一緒に新しい芽が出てきているということこそが日野高校のこれから魅力になっていくし、それを一つの魅力として売り出すというか、PRをすることも必要なんじゃないかなと思っております。その子供たちが3年間暮らしているのが双葉寮なので、この双葉寮の在り方っていうのも大いに、きちんと重視しなければいけないところだと思います。

先ほどの町長さんの回答で、多様な生徒たちが日野町について魅力感じながら、安心して過ごすことができる環境を整えることが必要だというふうに回答いただきました。そのとおりだと思います。そのとおりに、そのようになる、するためのことを町としてもやっていただきたいのですが、そこで伺います。高校との連絡、打合せ会というか、情報交換会みたいなものは午前中の同僚議員の回答の中で月に一回ほどやっておられるという御返事でした。その中で、その打合せの中で双葉寮についても触れられることはあるでしょうか。お伺いします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 日野高校さんとの連携とか情報交換、さらにはお互いの情報収集というのは何も町長と校長の間だけではなくて、魅力化コーディネーターであったり、また、教育委員会の事務局局であったり、いろんなところでやっていますので、どういうんですか、いろんなチャンネルを使ってやってるっていうことを御理解いただきたいと思います。

すみません、御質問のほうをちょっと。

○議長（小谷 博徳君） 双葉寮のことを、その月一回のミーティングで話題にしているかどうか。

○町長（埜田 淳一君） 双葉寮のことは、どういうんですか、魅力化向上推進の中で日野高校の存続、いわゆる志願者数、それと入学者数を一定以上、2分の1未満にならないように、それが本当に原則大きな目標でございますので、その目標を達成するために、先般、1番議員さんにも申しましたけれども、どういうんですか、郡内、それから、県内だけではやっぱり応募者が少ない中では県外者、そうすると県外者、生徒さん、学校の魅力も併せて住環境っていうようなことも大きな要素でございますので、特定のそのときだけに話すんじゃなくて、どういうんですか、会合をさせていただくときには、今、その応募者の見込みとか、応募者、県外の方の関心事項は何だろうかというようにお話を絡めて、折々に、折々っていうか、その都度その都度、双葉寮のことは話題になります。そういう状況でございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 最初の回答で、生徒が安心して過ごすことができる環境が整っていること、これが必要だというふうにおっしゃいました。では、町長は現在の双葉寮が町長が思っておられるような在り方、住環境になっているのかどうかお伺いします。（「住環境」と呼ぶ者あり）自分の理想と思っておられるような状態に双葉寮は現在あるというふうにお考えでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 県が設置されてる双葉寮でございますので、いろんな面で安心安全の面には県のルール、そういった配慮もあると思います。私のほうで安心して過ごせる環境だねって思うのは、やはり、どういうんですか、私も何回か双葉寮に入らせていただきました。非常にきれいな環境であると思いますし、なおかつ、コンパクトなんですけれども、部屋は清潔であったと思います。そして、安心安全で、50メートルも離れてないところに、50メートルじゃない、もっと近いか、駐在所さんもありますので、そういった面。それと、周辺そんなに空き家がないと思いますので、住民さんもいろんな温かい視線を注いでいただいていると思いますので、そういった面でも安心して過ごせる環境整っている、そういったふうに私は感じております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 住宅、住居に関することに関しては、町長はこれで大丈夫だというふうに思っておられるという認識だというふうに伺いました。けれどもですが、次の質問の項目に関連した関連質問をいたします。地域情報がきちんと入っているかどうかという点です。先

ほどのお答えでは、テレビはあるんだけど、中海テレビもチャンネルひのもテレビで見ることとはできない。ただし、それぞれが個人でホームページでチャンネルひのだけは見ることはできる。それから、防災無線は舎監室にはあるけれども、生徒がそれを聞くことはできないという状況にあるということが分かりました。これは県立高校の施設ですから、管理されてるのは高校です。だから、ああしろこうしろっていうふうなことはできないのかもしれませんが、少なくとも行政無線に関していうと、町が各家庭に、町民の皆さんの家庭に設置してるものですから、それの何か、これはかなり地域のことの情報が入ってきます、毎日。それを寮生一人一人が聞くことができるようにすべきではないのかなと私は思うのですが、その見解、町長からお聞きします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） ちょっと議論の腰を折るような感じで申すという意味ではないんですけども、一昨年ぐらい、高校生の方と、特に日野高校生の方とサークルになってお話をしたりなんかする中、それからあと、アンケートもあったと思うんですけども、どういうんですか、縁側塾を立ち上げるときもだったんですけども、高校生が情報を得る手段として、テレビはほとんど見ない、新聞は読まない、スマホとか、そういうものから情報を得るというので、ちょっと私、びっくりしてしまっただけですけども、そういった中で、防災無線はいろいろ日野町の情報を伝えれるから各戸に置いたらどうなのかというようなのは一つの御意見かもしれませんが、まさに県管理のところでございますので、そういう御意見がありましたっていうのは伝えるのかなと思います、何かちょっと私、違和感があるんですよね。そういうことであるならば、民家、我々の家でも子供部屋にも防災行政無線を置くべきではないかっていうような、何かちょっと違うんじゃないかなと思うんです。やっぱり舎監室にちゃんと置いてあるんで、どういんですか、舎監さんが、これは生徒たちにも必要な情報だなというのは白板に書き出すとか、そういうようなことも恐らくされてるんじゃないかなと思いますので、ちょっとそういう思いを持ちました。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） それでは伺いますが、こういう情報を担当課長さんはお持ちでしょうか。つまり、防災無線で流れた情報が生徒たちにとっても必要だと思われるものは書き出してあるんでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 遠藤教育課長。

○教育課長（遠藤 律子君） 申し訳ありません、その書き出してあるかどうかというところまでは確認できておりません。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 寮生からこういう話を聞きました。チャンネルひのさんとか中海放送さんが自分たちが活動したときに取材に来られます。その取材が終わっても、その番組がどのように扱われているか、自分たちの活動がどのように皆さんに発表されているのか、見る事ができない、いつの間にか、何か見たよみみたいなことをよそから聞いたりすることがあるだけである、これは非常に不条理なことじゃないんでしょうか。自分たちがやったことがどんなふうに評価されているのか、どんなふうに町民の皆さんに伝わっているのか、それは絶対本人たちは知るべきことですし、知りたいと思うことです。先ほども言いましたように、テレビに中海放送が見れるような設備をすることは町がやることではないのですけれども、今言ったようなことこそ、そういう打合せ会とか情報交換会のときに提案なり相談なりをされるべきではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 今お伺いして、目からうろこみたいな部分があるんですけど、確かにそうだね、単純に見る側じゃなくって、出演してる高校生が多いですので、確かにそういうことはあるのかなと思います。また今度、打合せ会のときに、こういうことが、こういうような、どういんですか、事象があるんですけども、ありましたけどもっていうようなお話は学校側にもしてみたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） そしてもう一つ、地域の情報を知る手段としては町報がありますね。これは各家庭に町民の皆さんには全て配られています。これは、要するに県の施設であろうが何だろうが、そこに町民さん、彼らも町民さんです、町民さんのところに届けるのが当然だろうと思うんですが、これは届けられていますでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 双葉寮のほうが自治会のほうに入っとられるかどうか確認を実はしてないんですけども、恐らくそういう活動、自治会に入ってってということではないと思いますんで、自治会の文書として配られてるといったことはないかと思います。以上です。

○議員（2番 梅林 敏彦君） ちょっと最後、聞こえなかったの。

○議長（小谷 博徳君） 双葉寮が自治会の範疇でないので、そこに届いとるかどうかいのは…
…。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 分からないと。

○議長（小谷 博徳君） 届いてないか。

○企画政策課長（神崎 猛君） 配布していません。恐らく配ってないかと思います。

○議長（小谷 博徳君） 恐らく配ってない。

2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 確かに自治会を通して配布されているので、そこが自治会でないと、それは配布されていないだろうと思います。しかし、これは今言ったような理由から、それこそこれはテレビだけじゃなくって、町報にも彼らの活動は毎号のように載っているわけで、それを彼らは読んでみたいと思うのは当然なわけですから、自治会を通さない形で配布することは可能だろうと思います。私、よく見かけます、根雨駅に行きますと町報がたくさん置いてあります。恐らくそれは町民以外の方が寄られたときにちょっと見て、持って帰られたりするほかに、町外から電車を通ってくる通勤の生徒たちも関心のある子たちはそれを持って帰ってみたいと思っているだろうと思います。それと同じことだと思しますので、ぜひともそういう別個の形、駅に持っていくのと同じように寮に持っていくっていうことは可能だろうと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 遠藤教育課長。

○教育課長（遠藤 律子君） 広報ひのの配布についてですけれども、教育委員会として企画政策課の担当にお聞きしたところ、配布のほうは、やはり自治会に属していないので直接はしていませんという答えがありました。ですので、自治会に属してなくても、申出、希望があれば当然配布することは可能でありますので、また高校のほうとお話をして、配布するよということは担当者とは話しております。

今全く広報ひの見れないというお話がございましたが、日野高校のほうには広報ひのがございますので、そちらのほうで見ているかもしれませんし、見ることは可能であるというふうに考えております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） ありがとうございます。ぜひ寮のほうにも持って行っていただきたいと思います。高校でも見ることは可能だというお話でした。そういう子たちもいるでしょうけれども、やはりちゃちゃっと立って見るのではなくって、自分の個室でじっくり見たいところはあるだろうと思いますので、ぜひそのお話を進めていただきたいと思います。

そうしますと、4つ目になりますけれど、舎監さんが今2名のところが1名になってしまっているということで、早急に補充したいという回答でございました。たくさん生徒たちを見るわ

けですから、1名の方がずっとやっておられるのはなかなか大変だろうと思いますし、そうしますと、なかなか目が行き届かなかつたりするのを避けるために、どうしても管理をするということに何か傾いてしまいそうな懸念がありますが、これは新しく入ってこられるのを待つしかないということになるわけですが、ここでちょっと提案といいますか、これこそ高校のほうが考えていただかなきゃいけないことで、これももし可能であるならば、何かその打合せの時間にでも高校のほうと相談するなり提案していただければと思うことがあります。

舎監と言わないで、ハウスマスターというのを採用されている高校が全国に少しずつ増えてきておるようです。例えば隠岐の海士町、島前高校なんかはそのようですし、あるいは広島とか、福島のほうでもこのハウスマスターというのを始めておられます。これはどういうものかといいますと、若い方、子供たちから見ればお兄ちゃんとかお姉ちゃんとかいう感じの方、中にはそのハウスマスターの採用を地域おこし協力隊として採用されているところもあります。

これはどういう意味があるのかといいますと、子供たちの自主性を重んじて、その管理の対象としてではなくって、人間形成を養う、その対象であるという観点からこういうことが採用されて、とてもうまくいっているようです。子供たちも伸び伸び育つし、自分たちで物事を決めていくということがあるようです。もちろんこれは本当にいい人、それに合った人を見つけなければ成功に結びつかないと思うのですが、なかなか町のホームページだけでこういうことを、人を採用しますといってもなかなか来ません。そのつなぎ役をしているところが、例えば日本仕事百貨とか、お聞きになった方もいるかと思いますが、そういうことをされる民間のところがたくさんあって、これを利用しながら、幾つかの高校は成功に導いておられます。これは町がやるべきことではないのですけれども、そういう舎監さん不足ということの解決策の一つでもなると思うので、そういうことを来年に向けて、今すぐということではなくて、今後に向けて、高校あるいは県の教育委員会になるんでしょうか、調査とか研究をされてみてはいかがかなという提案ですが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） ちょっとハウスマスターっていうのを今初めてお伺いしまして、お話を聞いてると、どういう概念になるのかな。要は、そういう舎監さんがいて、なおかつ、どういうんですか、管理部分は舎監さん、そして、そういった中でさらに特化した機能として、コミュニケーションとか、いろんなことをするために、さらにハウスマスターという者を増員で置いているのか、それとも舎監さんの代わりにハウスマスターっていう方を置かれてるのか、ちょっとよく分かりませんでしたので、ハウスマスターというキーワードをいただきましたから、いろいろ調

べて、こういうようなお話も、先ほどと一緒なんですけれども、こういうお話、御提案もありましたってことはつないでまいりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） ぜひともお話し合いの中の議題の一つに上げていただければと思います。

最後の質問になるんですけれども、地域みらい留学、それから「SCHOOL OF LOCK！」による学校訪問、このことについて、もう少し詳しく、これはどんなものか、どこが主催しているのか、その効果についても説明をいただければと思います。担当課のほうよろしいでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 遠藤教育課長。

○教育課長（遠藤 律子君） まず、地域みらい留学というものはホームページ上で見ることができますけれども、そちらのプロジェクトに参画する形で日野高校と県外の全国の生徒たちをマッチングしていただくことができます。そして、高校と直接生徒が話をすることもでき、その後、高校を現地訪問という形で訪問して、選択肢の一つとして考えていただけるというようなものでございます。本年度は6名が現地に来て、高校のほうを見ていらっしゃるようでございます。

「SCHOOL OF LOCK！」というのはラジオ番組になっておりまして、その中で、今、校長、教頭と言っておりますが、LDH、EXILEという、高校生には多分かなり有名な芸能の方がそういう副校長をされていたり教頭をされていたりというような番組で、そのラジオ番組の中の一つとして各地の高校を訪問されて、取材をされて、その内容をユーチューブで流されていたり、ラジオ番組で放送していただくということで、今回は先ほど説明したとおり、Weスポーツなど、いろいろ体験された模様もユーチューブのほうでアップされておりまして、効果としましては、2万2,000件以上のアクセスがございましたので、かなりの全国の方々にユーチューブを見ていただいているのではないかと思いますし、やはり若い高校生などがよく見ているようですので、感想の中には、私も日野高校に行きたかったというような、そういうような感想もコメントとしてありましたので、効果は期待できるものと考えております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 私も見させてもらいました。とってもいい内容になっていました。これは今2万件以上というアクセスがあつてということでしたが、町民の方にもぜひインターネットをされている方は見ていただきたい。現在の高校生たちがどんなふうになっているか、あるいは双葉寮の中でどんなふうに住んでいるかみたいなことも分かります。ぜひ御覧になってく

ださい、町民の皆さんへと思います。

最後、ちょっと町長に提案をして終わりたいと思うことが一つあります。先日、私たち議会では智頭町に行政視察に参りました。とても有意義だったんですけども、その智頭町役場を訪問したときに驚いたといいますか、ちょっと感動的なことがありました。

○議長（小谷 博徳君） 質問、端的に。

○議員（2番 梅林 敏彦君） はい、分かりました。

そこに大きな看板が出ていました。その看板の内容は、燃えろ智頭農林高校、智頭町の将来、君たちの双肩に、頑張れ農林校生、智頭町は智頭農林高校を応援しています。これはとっても智頭町の高校に対する意気込みというか、心意気みたいなものを感じたんですが、こういうのを見ると高校生はとっても勇気づけられるし、応援されてるんだ、頑張らなきゃというふうに感じると思います。日野町でもぜひそれやっていただきたい。ちょうど駅前には……。

○議長（小谷 博徳君） 質問を端的にしてください。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 電光掲示板がありますので、それを活用して、日野高校生にメッセージを送ってください。どうでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 電光掲示板等を活用して日野校生にあったかいとか熱いメッセージを送ってくださいということでございます。いろんな機会を捉えてそれもさせていただいてると思いますし、そして、そもそも日野高校にあったかい、熱いメッセージは私ども日野郡3町が連携して送ってるんです。何も日野町だけじゃなくて、日南町さん、江府町さんも日野高校の魅力化に対して非常に熱いまなざし、一緒に地域の高等学校を守っていこうということで連携して取り組んでるってことをまず御承知いただきたいと思います。以上です。

○議員（2番 梅林 敏彦君） ありがとうございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員の一般質問が終わりました。

○議長（小谷 博徳君） 次に、9番、竹永明文議員の一般質問を許します。

9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） それでは、私は今回、12月定例議会において、日野町行政推進の基本姿勢を問うということで一般質問をしたいと思います。

埴田町政2期目を迎え、日野町の資源を生かした第2次きらり日野町創生戦略を着実に進めるとあるが、進捗と今後の政策推進を問いたいと思います。4項目について、地域資源を生かした

にぎわいのあるまちづくりについて、どのようにお考え、どのように取り組まれているのかお聞きしたいと思います。1点目、山陰合同銀行根雨支店の活用について、2点目、黒坂小学校校舎跡地利用、3点目、日野中学校校舎跡地利用、4点目、日野高等学校黒坂施設グラウンド活用について質問をしたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 9番、竹永議員さんの御質問にお答えいたします。

きりり日野町創生戦略に関連した旧山陰合同銀行根雨支店、黒坂小学校、日野中学校、日野高等学校黒坂施設グラウンドについての考え方についてのお尋ねでございます。

まず、旧山陰合同銀行根雨支店についてでございますが、戦略では、まちづくり、文化財の保存活用の項目の中に旧山陰合同銀行根雨支店の有効活用として上がっているところでございます。昨年度、耐震診断をしたわけですが、非常に古い建物ですので、安全面からの改修が必要という診断でございました。最低でも景観保全のために残していく必要はございますが、安全面に配慮した改修はしなくてはならないと考えております。現在は文化財保存活用地域計画の中で町の文化財全体について検討を進めていただいているところでございます。その計画策定を待って、今後の改修についても判断したいと思います。

続いて、学校跡地についてでございます。これは、戦略のうち、集落機能の維持、移住定住の中に学校跡地を地域活性化中心施設として活用すると位置づけております。この項目の中には子育て環境をはじめとする生活環境の整備という記載もございます。また、今年の3月末に跡地利用検討委員会より利活用についての報告の提出をいただいているところでもございます。この中のもの全てというわけにはいきませんが、優先順位をつけて実施していきたいと思っております。

まず、黒坂小学校でございますが、黒坂地区は急激に過疎、高齢化が進んでおります。学校がなくなり、さらにこの流れが加速していくのではないかと懸念しているところもございます。検討委員会の報告書では地域の拠点ということも記載されています。例えば、集落再生を研究する拠点が、住民の方はもちろん、大学や国の研究機関も巻き込んで設置できないかと検討しているところでもございます。

日野中学校については、日野町内に乳幼児が遊べる施設がないというような御意見を頂戴しております。保育所の保護者会からも、ぜひそういった施設をとという要望書を提出いただいております。保護者との協議やアンケートなどを通して、どういう施設が必要か、意見を集約し、必要な設備の設置や施設の改修を行ってまいりたいと思っております。

両施設共通の活用としてサテライトオフィスの設置というものもございます。こちらについて

もマッチングなどを進めていきたいと思えます。

日野高等学校黒坂施設のグラウンドにつきましては、現在のところ、戦略では活用についての記載はございません。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） それでは、1項目ずつ再質問したいと思います。

ただいま町長のほうから山陰合同銀行根雨支店の答弁いただきました。これについては、さっきの改修について判断したいというような御答弁でしたが、あそこは改修というよりは、あれは町が合銀さんから4年前、いただいたもんです。それは町長が就任されて、あれは文化的価値があるということで日野町が譲り受けて、これを有効活用したいということを議会にかけられて、町民、議会も賛否両論ありましたけど、町長の意気込みをあれして議会を通したわけです。私が問うてるのは、その有効活用、もう4年間ですよ、4年たってるんですよ、その時点で文化財としての価値はあるというのは認めてるんですよ、町民も議会も。この4年間、どういう検討をされたのか、それを再度お伺いします。

○議長（小谷 博徳君） 塚田町長。

○町長（塚田 淳一君） 旧山陰合同銀行の根雨支店、山陰合同銀行様から無償で払下げというか、無償でいただいてから長い年月が過ぎてるけど、その間、何考えとったんだいっていうような、そういう趣旨のお話かなと思えますけれども、決して立ち止まってるわけではございません。いろいろ活用を、活用検討会にかけて、取得っていうような判断とか活用をするっていう判断もさせていただいたんですけど、その中でいろんな提案がございました。いろんな提案、それを絞り込むとか、さらなる検討する、議会の皆様ともいろいろ、どういうんですか、意見を交わさせていただきましたし、また住民の方からも御意見をいただく、そういうような機会も持たせていただきました。そういうようなこともさせていただいた中ですけども、一番はやはり歴史的文化財だということで、これは建ってるその状態を何とか景観としてもまず活用しないといけない、これは、どういうんですか、議会の皆様とも意見が一致してると思えますけども、ただ、中のどういう活用について、いろいろ御意見がございします。そういったものを今、文化財の利活用の計画の中でいろいろまたこれも御議論いただいておりますので、それを踏まえて考えていかないといけない。要は改修も用途、目的に合わせて改修の程度が違う、要は金額も違ってまいりますので、その辺を十分、どういうんですか、検討したもので考えてまいりたい、そのように今は考えております。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 重ねてお伺いしますが、文化財的な価値はあるということは私たちも認めてるところです。有効活用です、あの中をですね。どういう活用をするかということ、町長はよくおっしゃるのは、住民の意見を十分聞いて日野町政を進めていきたいと、それは私は当然だろうと思います。当然ここをいただくときにも検討委員会、様々意見があつて、その中、いろんな意見が出たと思うんです。それをいまだにまとめ切れてないというのが問題なんです。建物というものは人が利用しなかったら劣化が激しい。例えば4年、5年か、今現在、中はどうなってるか御存じですか。今の状況を分かってたら説明してください。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 私、最後にあそこに入らせてもらったのは、天井が見えるような、そういうオープンをされてるとき、2年前ぐらいだったと思いますけども、それ以降は中に入っておりません。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 要は答申が出ても、何も執行部としてはその後協議してないということをはっきり言ってるわけですね。

それじゃあお聞きしたいですけど、文化財保護活用地域計画っていうのはどういうことですか。町長、これのあれを待つて改修等を判断したいという、これはそういう中で有効活用等も審議されるんですか。どういう審議会なんですか、計画なんですか。

○議長（小谷 博徳君） 遠藤教育課長。

○教育課長（遠藤 律子君） お答えいたします。今、計画の中で審議されるかどうかというところで、この旧山陰合同銀行根雨支店の活用については検討、審議をしております。まだ公表ということはありませんけれども、今の段階で審議されてる内容としては、旧山陰合同銀行根雨支店の文化財や各種観光情報を集積した空間として活用、推進していきたいというところ、そして、その空間を利用して、地域団体のイベントの拠点としたり、希望者がミニ企画展示なども開催できるような多目的フリースペースという目的で今後活用していくことを検討していくという内容は、今のところ検討委員会にて出ております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 今、課長のほうから具体的に活用方法出ましたよね。審議会かけなくたって、それは4年前から十分協議できることじゃないですか。それを4年間放置して、今でもこういうことに、審議会にかけてですよ、これ長引かせると、本当、莫大な費用です。あれを、古くなれば、相当お金をかけないとできない。まして、無償で提供してもらってる。もらっ

てなかったら、4年間、税金入ってるんですよ、合銀から。だから、こういうことは、日野町の財産ですから、町長が得た、これは早急に進めてください。どうですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんの言われるのも一つの真理かなと思いますけども、文化財保存活用計画、これ、文科省の文化庁なんですけれども、いろいろそういう、保存活用計画に登載されたら、いろんな支援というか、補助金とかそういうのもございます。旧山陰合同銀行根雨支店のどういう活用をするかにあっても、いろんな財源探しというのもまた大切な要素でございましたので、そういう意味合いもあるということをお承知いただきたいと思ひますし、今、活用保存計画の中で、当該施設の利活用について議論を深めていただいとるということでございます。おっつけ計画策定ということになるかと思ひますので、それを踏まえて進めてまいりたいと思ひます。

○町長（埴田 淳一君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） それでは、この問題で時間を取りたくありませんので、今、町長おっしゃったように、そういう計画が出たら、早急に実施して、やっぱりそれを議会に示して、早急に実施すべきだと、古くなればなるほどお金がかかるわけですから、それを町長に進言します。

それでは、2点目の、これについては、2番目、3番目、答申の中でもこれは関連がありますので、まとめて質問したいと思います。検討委員会から答申が出て、執行部のほうから議会に検討の状況という報告がありました。その中に13項目あって、その中の9項目が将来的に検討ということをお明記しとられます、将来的に検討ということをお。執行部から出たこれは資料です。その中で、昨日の同僚議員の一般質問じゃあ、検討いうのは、極めてできない、しないというような意味の発言がありましたけど、そういうふうにお、将来的っていう言葉は、将来、来年なのか、10年先なのか、20年先なのかということ、やはりこの将来的ということの言葉というのはもうちょっと難しいという、理解しにくいと思ひます。

その中で、私は3つ具体的にお聞きしたいと思います。1点目は、その答申の中で、ささえ愛コンビニの拠点ということ、ここに出てあります。これについては、今の施設が、あいきょうさんの施設が老朽化して、修理もしないといけない、それで、借地だということ、議会からも再三この黒坂小学校の跡の教室を使ってやったらどうですかという提案もなされています。これについても将来的に検討いうことで、これは私は将来的じゃない、今年でも、来年でも、町がそういう意思を持てばできると思ひますが、それについてはどう思ひますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 軸的なお話ですよ。たくさんこういう活用があるんじゃないかというものが跡地利用検討会で出ました。そういう答申をいただいたときに、本当に宝石箱のようにいろんなアイデアが入ってるなと思いました。

その中でやはり、まず、こういったことは早く着手せんといけんのじゃないかというもの、要は優先度ですね、優先度をつけて、まずしないといけないもの、それ以外は将来的な検討、これは検討するんですよ。

○議員（9番 竹永 明文君） 今、コンビニについての質問なんで、それについて教えてください。

○町長（埴田 淳一君） そういった中で、今……。

○議員（9番 竹永 明文君） それ以外のことは要りませんから。

○町長（埴田 淳一君） コンビニ拠点というのがあったというか、ちょっとにわかには覚えてないんですけども、そういうものについて、これは町だけじゃなくて、どういうふうにしていくのか、これはもう相手様もおられますし、また、今々はなかなか学校もまだ動いてますので、これはもう少し、どういうんですか、すぐ、じゃあこうしますっていうわけではない、今の施設でランディングしておられますけれども、大分その施設も古くなってるというようなことも当然承知しております。どういうふうな、あの施設でいいのか、それとも今議員さん御提案の、早く学校跡地というか、黒坂小学校の校舎ですか、そっちに持っていきべきだというような御議論もあろうかと思います。いろいろな面で考えていけないといけない、検討していけないといけないと思います。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 限られた時間の一般質問なんで、回答を求めたものだけ答弁していただきたい。これについては、再三議会の中でもそういう提案がありました。その中で、今は学校がやってますと、来年以降検討したいということを町長おっしゃったんですよ。今、あいきょうのこれに借地代、家賃代とか見回りのお金とか、いろんなもんで年間1,300万、町が委託料を出してるんですよ。それは見守りとか買物支援のお金も入ってます。だから、よそから借りて、そういう業者の人に将来負担をかけるよりは、町の施設を使って有効活用するということ、私は早急にそういうことが、ほかになかったら、取りあえずそういうことでもやるという意味ですよ。もう一度、そういうことに関して。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埜田 淳一君） しっかり検討してまいりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） それでは、2点目ですね、キッズスペースということで、先ほど乳幼児の居場所づくりについての要望書があったということですが、どういう要望書だったのかお聞かせ願いたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） お答えいたします。要望書のほうはひのっこ保育所の保護者会の会長さんから出ております。現在、町内では園児や児童が安心して遊べる施設、特に休日や悪天候時、室内で遊べる施設がないというような御指摘でして、そういった施設を求めておられるということで、それについて検討を進めているといったところでございます。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 子供に対し、若者定住ということで、町長はそれを重点的にそういう施策をやってます。保育料の無料とか、それから病児・病後児保育とかいうすばらしい政策、こういう若い人の世代がそういう意見出したら、早急にそういうことは、考えてできることからやっぱり私は実施していただきたいと思いますが、それについて町長のお考えを聞きたいと思えます。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 今、関係、庁内でも、組織内ですね、庁舎内の職員集めていろいろ検討させてもらってますし、事このキッズスペースに関しましては、たしか米子に何か保護者の方がいいなあと思われるような施設があるみたいですので、それを見学に行かせていただいたり、私は八頭町の隼小学校の跡、そこもキッズスペースがございまして、ちょっとそれを見ておいでよということで職員も行かせておられますということでございます。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） もう1点は、町長が力を入れたいということで、サテライトオフィスについてです。これは日野町だけじゃなくて、都市部についても少子化で学校統合、廃合があって、もう皆さんこれの活用で、これについていろんな施策、いろんな努力をしております。これは、ただうちがこういうことをやりたいというだけでは、なかなか企業さんとかは乗ってこない。それなりに日野町としてどういうメリットがあるのか、企業さんに対して、それから、どういう呼びかけをするのか、それから、企業さんとどういう、そういう接触をして、来ていただくようにしないといけないと思いますから、私は、これは庁舎内にプロジェクトチームでもつく

って、それこそやって、長年かけてやっていかないと、私はそれはなかなかできないというふう
に思いますよ。そういうプロジェクトチームでもつくって取り組むというお考えはありますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） まず、端的に結論から言いますと、そういう取組、プロジェクトチーム、
私どもの町、小さな町で少ない職員、縦割りにしてたら、なかなか情報が全部回らないというか、
情報共有が疎になってしまうということです、そういう形も当然していかないといけないと
思っています。

それと、サテライトオフィス、まさに議員さんおっしゃるとおりなんです。廃校ということ
で、全国の廃校がどういう状況にあるか、これ、文科省がホームページとか何かいろいろ出して
るんですけども、結構こういうことに使いたいってようなことで民間企業さんにもアピール
してるんですけど、かなりの部分が塩漬けというか、活用のめどがまだ立ってないというような
状況があるというのが現実の世界ですので、やはりサテライトオフィス、今、田舎でも都会と同
じように仕事ができる、そういう環境にもございます。自然の豊かさとか、いろんな日野町の特
色とかも上手に伝えながら、何とかシェイクハンドができるように企業さんを見つけてまいりた
いなと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 庁内にプロジェクトチームとまではなかなか難しいけど、前向き
に検討したいという答えだったので、時間がありませんので、次の私が今日一番したかった一般
質問に入りたいと思います。日野産高グラウンド跡の活用についてということで、町長の答弁は、
現在のところ、戦略に、活用について記載がございませんという、これだけの答弁です。私はど
ういう意図があって町長がそういう答弁されたのか分かりませんが、それは、答弁というのは
町長さんのお考えですからよろしいですけど、この記載されてないということを言われましたけ
ど、きり日野創生戦略、2次について、18ページに基本方針として、ライフステージに応じ
た運動スポーツ活動の充実ということで、誰にでも気軽にスポーツを楽しむ環境を整備し、スポ
ーツ、レクリエーションの普及を図りたい、活力あるまちづくりを推進しますってここに載っ
てますけど、それとは、私はそういうつもりでこれを出したんですが、町長がそういう答弁され
た意味をもう一度お聞かせください。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 合銀の活用であるとか学校跡地の利用というのは、個別具体的にそういう
項目立てをしております。今議員さんがおっしゃいました18ページのスポーツでの交流云々か

んぬんというのは、これは何も特定のものを示すんじゃなくって、スポーツ活動、今ある、今や
ってるスポーツ活動をさらに拡大していくとか、そういうような意味合いもありますので、特定
のものを示すものではないということで、この創生戦略の今の状況の中にはそういう項目とい
うか、そういうものはないということでお答えさせていただきました。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） それで、私が日野高校のグラウンド活用について今回一般質問し
たのは、昨年12月の議会に、団体から、日野高等学校黒坂校舎グラウンドの陸上競技場トラッ
クの整備についてという陳情が出ました。これを受けて、日野町議会は日野郡で行われる郡民体
育大会や四県四郡などの歴史ある体育大会を継続して開催し、スムーズに運営するために、雨天
でも利用できる陸上競技場整備が求められると。日野高等学校黒坂校舎のグラウンドの陸上競技
場を日野郡3町が連携し、スポーツの活用拠点として整備することは、本町をはじめ、日野郡の
スポーツ育成やスポーツコミュニティの醸成につながるという理由で、これは採択をしてます。
この採択を受けて、議会というのは、町長よく御存じのように、町長のように提案権とか執行権
ありませんけど、日野町の最終決定機関です。この決定機関が出したから必ずしないといけな
いということはありませんが、それを受けて、町長としてはこの議会の採択をどのように受け止め
られて、どのように検討されたのかお聞かせください。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員御指摘の日野高等学校黒坂校舎グラウンドの陸上競技場トラック整
備についてということで、昨年の11月25日、各町長宛て、さらには各議長さん宛てに、3町
それぞれ出されたというふうに承知しております。そして、3町の議会とも採択をされたとい
うことも承知しております。

それで、そういう状況ですので、どういう内容なのか、書いてある部分について実現性、そう
いったものをいろいろ資料を整え、それから、いろんな資料を集めて、情報を集めて、どうい
うふうにしていくのかという、これ議論をしていかないといけないということで、これは3町長が
集まったときに、要検討のための、どういうんですか、案というんですか、検討材料をまずつく
らないといけない、その担い手として、日野町、これは黒坂校舎のグラウンドがある町として
やるというか、まとめ役っていうか、事務局的な役割を担わせていただいて、いろいろ関係機関、
県からの情報も取る、それから、いろいろアドバイスをいただいた、どんな補助制度があるか
というようなこともいろいろ検討させていただいたということでございます。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 町長は議会の採択について、3町とも採択したということで、この重みをもっていろいろ検討されたという、今の答弁、そういうお考えで進んでいただいたということは私も理解しますが、その中で、これは、一番の問題は、日野校舎のグラウンドをお借りできるかと、そして、布勢の運動公園の再利用の資材が分けていただけるかということ、それと、財政面ということで今の補助金のこと、これが大きな問題だったように、課題だったように思います。

その中で、9月27日、日野町議会の全員協議会の中では、結果から言えば、いろいろ検討したけど、引渡しが見込めないと、検討を進めていくことができない結果に至ったという報告が町長のほうからありました。この9月27日というのは、布勢の運動公園の払下げの期限がもう過ぎた後です、期限が。そのときに突如として日野町議会のほうにこういう結果が出てますが、その内容について、私はちょっと理解できない。その点について細かく質問したいと思います。今言ったように、再利用じゃなくて、日野高等学校施設のグラウンドを借りるのが一つのあれだと思うが、それについて、日野高校とどうい話をされたんですか。

○議長（小谷 博徳君） 遠藤教育課長。

○教育課長（遠藤 律子君） 議員さんの質問にお答えいたします。日野高校というよりも、県のほうとお話をさせていただいた中で、最初に陳情に行かれた経過のほうも県が承知しておりましたので、借地については手続を進めて、議会のほうで承認されれば可能であるというお答えはいただいております。ただ、その手続を進めるということになると、こちら、グラウンド整備について、必ず整備をするという日野郡3町の合意があり、整備をする確約がないと手続ができないというのが教育委員会の状況でございました。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 今の課長の答弁は、この払下げに関しても同じような、やっぱり両町の確認がなければいけないということですね。確認をするための、町長は3町でそういう協議されたんですか、進めていくのに。

○議長（小谷 博徳君） 3町の合意を得るための協議。

埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 冒頭でもちょっとお話をさせていただいたんですけど、3町長集まる機会もございます。そういったときに、団体さんからこういう要望が出て、それぞれの議会、こういう反応をされた、検討していくに当たってはどの部分から検討する、この部分も検討しないといけない、この部分も、要は払下げが本当に確実なのか、それと、誰が整備するのか、そして、

その整備した後の管理は誰がするのか、その辺を要は、どういうんですか、いろいろ検討していかないといけないよねということで検討をさせていただく、そういった資料づくりを、日野町が事務局を担って、いろいろ情報を収集し、整理して、どういうんですか、いろいろもむって言い方がいいのか、いろいろ検討させていただいたということでございます。検討を進めさせていただいたということ。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 時間がないので、単刀直入に言います。議会のほうに報告があったのは、3町のトップ会談したのは8月9日、1日だけです。それも、オンラインで。それが今、町長が言うような協議、その1日でトップ会談されたんですか。たった1日で、町長が今、それぞれ何回もやってるようなことを言ってますが、実質的にはこの日のオンラインの会議だけですよ。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議題を定めてのトップ会談というのはそのときです。ただ、いろんな会合で会いますので、いや、だって、話合いができるわけですから。それと、事務局側でトップ会談の手前というか、トップ会談に至るまでに、各それぞれの社会体育部門担当が、その3町集まっているいろいろ検討をして、それを持ち上げていただいて、その8月のときに、こういうことですねという話になったわけです。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） それでは、事務局のほうはそういう相談はされましたか、集まって。報告を、日野町のほうから報告したいというのは私は聞いてますけど、そういうことを、一からの相談というのは、私はしたということは、私の認識では開いてないというふうに思ってますけど、それについては。

○議長（小谷 博徳君） 遠藤教育課長。

○教育課長（遠藤 律子君） お答えいたします。教育委員会としましては、6月、それから8月のときに教育課長のほうで集まって話合いはいたしました。あとは、それぞれ電話、メール等でのやり取りで行っておりますので、正式に会議をしたというのは2回ということでございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） それでは、大体いろいろ言われますけど、現実にはあまりそれについて協議してないというふうに私は受け取りました。

ただ、その次、布勢の運動公園の払下げについて、町長がここに報告したのは、払下げの見込みができないと。学校優先なのでできないということで、申し込みしてないんですよね。申し込みしたかどうか。

○議長（小谷 博徳君） 遠藤教育課長。

○教育課長（遠藤 律子君） お答えいたします。まず、県のほうから、教育環境課のほうから文書が参りまして、市町村教育委員会に対しまして管轄する学校等への希望があるかどうか取りまとめ、8月25日までに回答をとということで来ておりました。それについては、こちらのほうも教育環境課のほうに確認いたしました。当然、学校からも希望が出ますし、グラウンド整備のことも相談しておりましたので、そちらのほうで、グラウンド整備の3町で連携して整備をするという確約ができれば当然申込みはできますという回答はいただいております。状況を締め切った後でももちろん申込みはしてもよいということでお返事はいただいております。

ただ、状況的に学校のそれぞれの県内の高校、小学校、中学校等の希望数が払い下げされる予定数量をオーバーしてるという状況もあり、申し込んだとしてもグラウンド整備に必要な数量は確保できないということがございました。ですので、申込みのほうは教育委員会としてはしておりません。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） この件については、各町の議会の採択受けて、郡体協さんが県に要望活動に行つとられます。それを踏まえて、各町の町長さん方にその報告と要望に行かれたと思います。その状況の私の知ってる範囲では、県は、日野高校はもう現在も使ってないし、今後も使う予定がないので多分大丈夫だろうと、大丈夫ですということをおられました。それで、払下げについて、学校優先ということでありましたけど、日野郡のほうがそういうふうな要望活動をして、県のほうは、この施設は学校等の教育関係で使用を希望される人に払下げをしますと、引き渡ししますという文書があります、ここに。ということは、十分申込みができたはずです。申込みをした中で、今言われたように数量が足りないと、そういうことで、いろいろ考えたけど、予算面を踏まえて断念するということなら分かりますよ。申込みもしないのに、そういうことを誰が判断されたんですか、申込みをされないというのは。

○議長（小谷 博徳君） 遠藤教育課長。

○教育課長（遠藤 律子君） お答えいたします。先ほども申し上げたとおり、その期限には、もちろん8月25日までには申込みをしていないのが事実でございましたし、ただ、それ以降、自然課、教育環境課と話をして、もし必要であれば、そのグラウンド整備について実施するという

確約があれば、それはその後も申し込んでもいいですよという返事はいただいております。

ただ、教育委員会としましては、その3町の協議の内容をお聞きしたところ、なかなかその経費面を考えた上で、3町の負担についても合意は得られていないという状況もありましたし、それから、舗装材を運搬する費用もかかります。それについて予算もありませんでしたので、その時点で手続を進めるということ、申込みをするということとはできないという状況でございました。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 今、課長の質疑はね、去年の12月、採択してます。その後、本来でしたら、その協議をやって、どういう形で県のほうにそういうお願いしようかという段階を踏んで協議するのが筋じゃないですか。今の状況を聞きますと、確約があればって、確約があるような、取るような努力してないじゃないですか。これ以上質問しても、もうらちが明きません。

はっきり言って、この議会の採決、3町の議会をあまり認識されてない。それと、努力をされてない。日野高校を通さないと、県教委にふだん交渉しますか。日野高校ですよ。日野高校を通してやって、それを県に上げて、それじゃあ、払下げにはどういう状況だったら払い下げできる、受皿ができてるにもかかわらず、やってないんじゃないですか。それは、町長。

それと、課長が言われるように、3町がそういう内容でしたら、3町とも議会に報告あるでしょう。日南町、江府町は議会にも報告はありませんし、陳情者にも何にもないんですよ。それはおかしいじゃないですか。話ができてるのに対して、当然それできるでしょう。それについて町長、どう思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） たくさん言われたんで、ちょっと、一番最後ぐらいから。日野町議会では、この日野高校のグラウンド整備案ということの要望を採択されたものについては、こういうふうになりましたというのは御報告しました。江府町議会は11月28日に11月の臨時議会を開かれて、全員協議会の折に報告をされたということで、これは建設工業新聞のほうに載っております。だから、江府町議会もされた。

それと、もうちょっと戻すと、私、いろいろ議論聞いてて、確かにその部分、要は、整備の要望の趣旨はこの布勢の陸上競技場の全面張り替え改修工事を出たそのオールウエザートラックを利用して、日野高校校舎グラウンドに設置していただきたい、そういうのが論点ですよ。いろいろその辺を事務局側が県教委さんと情報を取りながら、どのくらい使えるだろうとか、何かそういうようなあたりから、結局は手を挙げるところが多いので回らないでしょうというような、

そういうものとか、もしこれがどのくらい、全然もらえない、さらには、もらえた場合、どうい
うような、どのくらいお金がかかるのか、さらに、そのときにはどういう補助金を使えるのか、
いろんな多面的に検討させていただいて、どういうんですか、金額的にも、さらには御要望の趣
旨である再利用というのが全然できないということなんですということを御報告させていただい
たというふうに捉えています。以上です。

○議員（9番 竹永 明文君） 時間がありませんが、今のは答弁になってない。（「なってない、
なってない」と呼ぶ者あり）答弁になってないので、3町がそういう十分協議をされたんだっ
たら、3町とも議会に当然報告なされるし、3町の町長が陳情の出された人に結果出すわけですよ。
ほかの町は出してないということは、話ができてない。

○議長（小谷 博徳君） 竹永議員。

○議員（9番 竹永 明文君） いや、それを言ったのに答えてない。言ったのに答えてないけえ。

○議長（小谷 博徳君） いや、今、質問に答弁が不十分だということで、質問の内容は、今、竹永
議員が言ったことが答弁に返ってきていないってということで。（発言する者あり）

ちょっと時間止めてください。ちょっと、もう一遍言ってください。（「休憩にしなはれ」と呼
ぶ者あり）

休憩。（「時間止めたけえ、もう一回言え」と呼ぶ者あり）

午後2時45分休憩

午後2時47分再開

○議長（小谷 博徳君） 休憩を解きます。再開します。

遠藤教育課長。

○教育課長（遠藤 律子君） 申込みの判断につきましては、教育委員会課長とお話をして、協議
の結果、教育委員会が判断いたしました。

その後、結果について、陳情者に対して文書を出すとか、議会に対して説明することについて
ですけれども、江府町につきましては、先ほど町長が申し上げましたとおり、11月の臨時議会
で説明をされておりました、内容は日野町が説明したものと同様であります。日南町に関しまし
ても同様の内容を伝え、合意は得ておりますけれども、江府町に関しては、陳情者に対しての文
書はこれから発送するということを担当者からは伺っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 答弁がいろいろちぐはぐで、要はそういう努力をさせていただいて

ないというふうに私は受け取ります、今の答弁。学校にも話も行ってない、電話連絡だけ。町長同士はついでに話したのが、話になるんですか。

それでは、最後に1点だけ言います。今、人口、少子化で、本当、各単独では何もできなくなってます、スポーツ。その中で、スポーツ庁が25年には部活指導者の地域移行、そういうあれをつくります。その中で、鳥取県知事もいつかの県議会の中で、スポーツ庁の有識者会議が25年にできることについて、県としてはもう積極的に応援したいというような答弁をしとられます。それで、教育長については、子供たちの活動の機会を確保することに全力を尽くすと。

今、日野郡は、町長、日野町に町の体育施設、幾らあると思います。日野町にはテニスコートが2つしかないんですよ。それ以外は一切ないんです。そういう時代に、日野郡全体が子供同士が集まってそういうスポーツの活動をする、そういう拠点が必要なんですよ。それを再度、もう一度違った観点からお考えください。それについて。

○議長（小谷 博徳君） 体育施設が日野町に非常に少ないと。何件あるかとか。

あとは何だったかいな。3点は何だったかいな。

ちょっと休憩します。

午後2時50分休憩

午後2時51分再開

○議長（小谷 博徳君） じゃあ、再開します。

埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 大変失礼しました。地域スポーツの関係で、どういうんですか、スポーツの大切さとかそういうような中、私、今ちょっと学校の関係のお話なのかなって聞いたんですけども、要は学校教員さんの負担軽減のためにスポーツ少年団、何かそういうような地域の方がどんどん関わるようになっていうような、そういうようなお話、指導として、そういう部分のお話だったかなと思います。昨日かおととい、県知事も答えられてますけれども、町村会としたら、一律に同じように文科省が進める、そういう地域のほうでリーダーとか指導者を担ってくださいということについては、これはそれぞれの地域の実情があるんで、状況があるんで、一律にはしないでくださいというような要望を上げさせていただいてるという状況がございます。

あと、施設が少ない、確かに今お聞きしたら、少ないということでございます。黒坂校舎のグラウンドにおいても、1つの町で持つんじゃなくて、3町でっていう、本当に少ない施設を小さなそれぞれが持つっていうのは大変でございますので、そういう御趣旨はすごく大切だなと思

ます。

人口が少なくなる、スポーツ人口も横ばいかちょっと少なくなるような中でどういうふうな施設の在り方がいいのか、これはまた3町連携の中でいろいろ議題っていうか、議題にさせていただくようなことをしてもいいのかなと、今御発言を聞いて考えました。ちょっとまた3町連携の中で、1つの項目として、どういうふうに方向性を持っていくのか、考えていくのか、その辺は議題にしてみたいなと思います。以上です。

○議員（9番 竹永 明文君） 議長。

○議長（小谷 博徳君） もう質問は終わりですよ。

○議員（9番 竹永 明文君） うん、質問しません。

○議長（小谷 博徳君） 竹永明文議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 最後に、町長がリーダーシップ取って、3町連携で考えたいという答弁いただきましたので、私の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永明文議員の一般質問を終わりました。

○議長（小谷 博徳君） お諮りいたします。本日の会議はこれで散会といたしたいと思います。これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小谷 博徳君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれで散会することに決定をいたしました。

会議の再開は、12月14日午前10時といたします。御協力ありがとうございました。

午後2時5分散会
